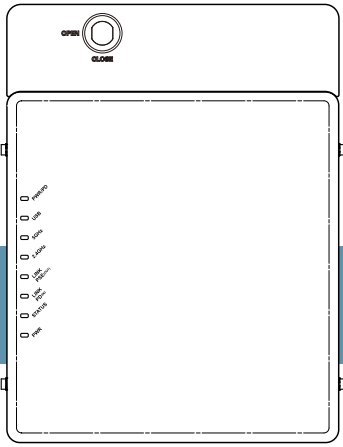
ELECOM

User's Manual

ユーザーズマニュアル

第 2 版 2020/12/15

対象ファームウェア：Ver.1.0.7 以降



マネージ Wi-Fi 6 1201+574Mbps
スタンダードモデル 無線アクセスポイント

WAB-M1775-PS

この度は、エレコムの無線アクセスポイントをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
このマニュアルには本製品を使用するにあたっての詳細な設定方法が説明されています。
また、お客様が本製品を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。詳細な設定を行う場合は、必ずこのマニュアルをお読みになってください。

- 本書は表紙に記載のファームウェアバージョンを基に記載しています。
  下位のファームウェアバージョンでは画面表示や機能が異なる場合があります。
- 本製品の基本的な導入手順については、付属の「クイックセットアップガイド」などをお読みください。

もくじ

導入編 6

用語 7
- このマニュアルで使われている用語 7
- このマニュアルで使われている記号 7

このマニュアルをお読みになる前に 8
- 「クイックセットアップガイド」の主な内容 8

本製品の概要 9

設定画面について 11

セットアップ編 13

STEP1 設定用のパソコンを接続する 14

STEP2 本製品の設定画面で無線を有効にする 17

設置編 20

本製品を取り付ける 21
- セキュリティカバー付きで設置する方法 21
- マグネットで設置する方法 24
- マグネット用プレートで設置する方法 25

本製品をブラケットから取り外す 26

LANに接続する 27
- PoE給電機器を使用する場合 27
- 別売のAC アダプター(WAB-EX-AC12)を使用する場合 28

アンテナ(オプション)の取り付け方法 29

設定リファレンス編 31

管理画面(設定画面)を表示する 33
- 各メニューについて 35

システム構成 35
無線設定 36
ツールボックス 37
システム構成 38
システム情報 38
LAN側IPアドレス 39
LANポート 41
VLAN 43
ログ 45
Syslogサーバー 46
無線設定 47
WPS 47
ゲストネットワーク 49
2.4GHz/5GHz 53
基本設定 53
詳細設定 56
セキュリティ 60
クライアント 65
WDS 66
MACフィルター 68
RADIUS 70
RADIUS設定 70
内部RADIUSサーバー 71
ユーザー認証 73
WMM 75
スケジュール 77
スケジュールの設定画面 78
Link Integrity 79
ワイヤレスモニター 80
災害モード 82
ツールボックス 84

管理者 84
日時 87
設定を保存/復元 89
初期化 92
ファームウェア更新 93
ファームウェア更新 93
ファームウェア確認 94
I'm here 100
節電 101
再起動スケジュール 103
LED設定 104
再起動 105

こんなときは 106

ゲストネットワークを設定する 107
Eメール認証する場合 110
E-MAIL認証設定時のユーザーの認証方法 111
ログインID／パスワードを変更する 112
インターネットにつながらない 113
無線LANがつながらない 114
端末からWPSで本製品に接続できない 115
WPSを使っても接続できない 115
PINコードで接続できない 115
ファームウェアを更新する 116
登録した無線子機のみアクセスを許可する 118
初期化する 121

付録編 122

安全上のご注意 123

使用上のご注意 **126**
このマニュアルについて **127**
無線LANをご使用になるにあたってのご注意 **128**
動作環境 **129**
各部の名称とはたらき **130**
パソコンのIPアドレスの確認方法 **133**
Windows 10の場合 134
製品の保証について **136**
製品の保証とサービス 136
サポートサービスについて **137**
基本仕様 **138**
設定ユーティリティの工場出荷時の設定値 138
有線LANの工場出荷時設定値(初期値) 138
無線LANの工場出荷時設定値(初期値) 139

導入編

用語 **7**
このマニュアルで使われている用語 7
このマニュアルで使われている記号 7
このマニュアルをお読みになる前に **8**
「クイックセットアップガイド」の主な内容 8
本製品の概要 **9**
設定画面について **11**

用語

このマニュアルで使われている用語

このマニュアルでは、一部の表記を除いて以下の用語を使用しています。

用語	意味
本製品	無線 LAN アクセスポイント「WAB-M1775-PS」を称して「本製品」と表記しています。
11ax / 11ac / 11n / 11g / 11b / 11a	IEEE802.11ax 規格を「11ax」、IEEE802.11ac 規格を「11ac」、IEEE802.11n (2.4G/5G) 規格を「11n」、IEEE802.11g 規格を「11g」、IEEE802.11b 規格を「11b」、IEEE802.11a 規格を「11a」と省略して表記している場合があります。
11bgn	11n (2.4GHz 帯) /11g/11b の略です。
11an/ac	11a/11n (5GHz 帯) /11ac の略です。
無線 AP	無線 LAN アクセスポイントを略して「無線 AP」と表記しています。
無線親機	無線 LAN ルーター、無線 AP を総称して「無線親機」と表記しています。
無線 LAN 子機	無線 LAN 機能を内蔵したパソコン、無線アダプターを取り付けたパソコン、無線コンバーターを接続した機器などを総称して「無線 LAN 子機」と表記しています。また、無線アダプター、無線コンバーターそのものを「無線 LAN 子機」として表記している場合があります。

このマニュアルで使われている記号

記号	意味
重要	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、故障の原因になることがあります。注意してください。
MEMO	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

このマニュアルをお読みになる前に

本製品には、印刷物で「クイックセットアップガイド」が付属しています。
クイックセットアップガイドには、以下の内容が記載されています。
該当する内容がありましたら、そちらをお読みください。
※ マニュアルの改訂により、内容の一部が変更される場合があります。

「クイックセットアップガイド」の主な内容

- 各部の名称とはたらき
- 主な仕様と工場出荷時の設定値
- 各モードでのセットアップ方法

MEMO

印刷物のマニュアルが見当たらない場合には
エレコム・ホームページより、最新のPDF版をダウンロードすることができます。

本製品の概要

- 次世代規格「Wi-Fi 6」(IEEE802.11ax Draft準拠)対応。5GHz/1201Mbpsと2.4GHz/574Mbps同時通信で最大1775Mbps対応。Wi-Fi 6対応端末との組み合わせで業務効率向上に貢献します。

- 端末ごとの通信状況を均一化する「平等通信機能」を搭載することで、動画再生やデータダウンロードのばらつきによる待ち時間を軽減します。

- 端末方向に集中して電波を送信する「ビームフォーミング」機能により、対応する端末では、離れた場所でも快適な接続環境を提供します。

- 最大256台(5GHz:128台、2.4GHz:128台)の無線端末と同時接続が可能なため、災害時に避難所となった際や講堂・会議室での利用時に、一斉にアクセスしても安定した通信が可能です。

- LANケーブルを使って電気を供給できるPoE受電(IEEE802.3af/at)に対応し、電源を敷設できない場所に設置が可能です。
  ※ ACアダプターは標準添付されていません。オプション(WAB-EX-AC12)をご用意しています。

- PoEパススルー機能に対応し、本製品がIEEE802.3atで受電した際にはIEEE802.3af(Class2)受電機器1台にPoE給電可能です。

- 最新セキュリティ規格WPA3に対応。WPA3-Enterpriseにも対応し、RADIUS(認証)サーバーと組み合わせることで、無許可機器を接続させないようにすることができます。

- 用途に応じ、無線アクセスポイント1台で複数のSSIDを提供する「マルチSSID機能」を搭載しています。

- 来客へのネットワーク提供を簡単かつセキュアに実現する「ゲストWi-Fi機能」を搭載しています。

- 大規模災害時に誰でもスムーズに通信することができる災害用統一SSID「00000JAPAN(ファイブゼロジャパン)」を搭載し、手持ちのスマホ、タブレットやPCへの通信環境を提供します。

- DFS障害回避機能搭載で、5GHz DFS帯使用時でも切れない無線環境を構築し、教育現場や工場などで快適・安定通信を保ちます。また、電子レンジなどの2.4GHz帯電波も常時監視し、高精度で最適なチャンネルを定期的に決定します。

- マグネットや壁掛け・天井設置用金具を標準添付しているので、金属面や壁面・天井面など様々な場所に設置が可能です。

- 学校や公衆でのいたずらや破損を防ぐセキュリティーカバーが付属しています。

- 夏場の学校や工場など、高温になりやすい環境でも使用可能な耐熱50℃対応です。

- 設置された複数台の無線アクセスポイントを管理パソコン1台でまとめて管理できる集中管理ソフトウェア「WAB-MAT」(オプション) に対応です。複数のSSIDやセキュリティなどの一括設定や稼働状況を確認できる死活監視により、設定の省力化とネットワークダウンの最小化を実現します。

- 設置場所に応じた電波調整が可能なオプション外付けアンテナ (WAB-EX-ANT1) も用意。ネットワーク設計に応じた柔軟な対応が可能です。

- 標準のセンドバック保証3年に加えて、ユーザー登録で2年、保証期間を延長。企業での利用が更に安心してご利用いただけます。
  ※ 2年間延長保証はエレコムサポート&サービス株式会社 (ESSC) 提供のサービスです。

設定画面について

本製品の各種設定をするために、Webブラウザーから利用できる設定画面があります。

表示方法

1 本製品の設定に使用するパソコンのネットワークを設定します。

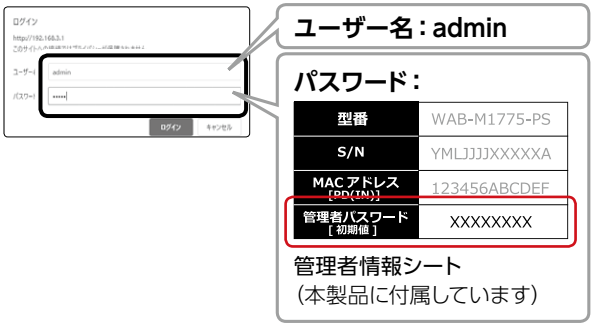
IPアドレス：192.168.3.xxx
xxxは、2～254までの任意の数字にします。

2 本製品に接続しているモバイル機器やPCのブラウザーを開き、以下のWebページを表示します。

認証画面が表示された場合は、ユーザー名に「admin」、パスワードに「管理者情報シート」に記載された「管理者パスワード(初期値)」の8桁英数字を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

http://192.168.3.1/

初期設定のユーザー名	admin
初期設定のパスワード	XXXXXXXX (管理者情報シートに記載の 8 桁のパスワード)



設定画面が表示されます。

- ご利用のブラウザー（Chromeなど）のバージョンによっては「保護されていない」などの警告が表示される場合がありますが、セキュリティ上問題ありません。そのまま操作を続けてください。
- 各ボタンの詳しい内容や設定方法については、「設定リファレンス」をお読みください。→31ページ

セットアップ編

STEP1 設定用のパソコンを接続する 14
STEP2 本製品の設定画面で無線を有効にする ... 17

STEP1 設定用のパソコンを接続する

1 本製品の設定に使用するパソコンのネットワークを設定します。

本製品の設定に使用するパソコンのネットワークを次のように設定します。

IPアドレス	192.168.3.2
サブネットマスク	255.255.255.0

MEMO

- 固定IPアドレスで接続するため、本製品を他のネットワークに接続しないでください。
- 本製品は、DHCPサーバーからIPアドレスを取得していない場合、IPアドレスが「192.168.3.1」に設定されます。
- 本製品の無線機能とIPアドレスの工場出荷時の設定値は、次のとおりです。

無線機能	無効（設定画面から有効にします）
IPアドレス	DHCPサーバーから自動取得

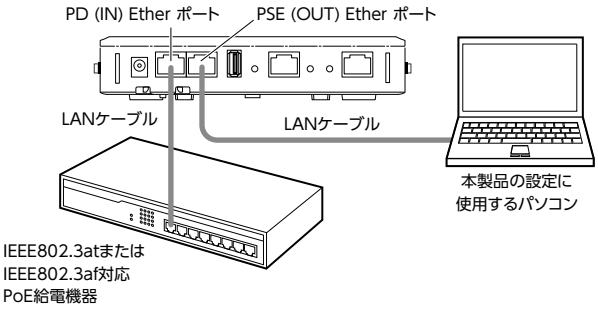
2 本製品と本製品の設定に使用するパソコンを接続します。

有線LAN ポートを持つパソコンをご用意ください。

PoE給電機器を使用する場合

① 本製品のPSE(OUT) Etherポートと、本製品の設定に使用するパソコンをLANケーブルで接続します。

② 本製品のPD(IN) EtherポートとIEEE802.3atまたはIEEE802.3af対応PoE給電機器をLANケーブルで接続します。



■ PoE パススルー機能について

本製品は PoE パススルー機能に対応しています。本製品への電源供給機器が IEEE802.3at 規格準拠の場合、IEEE802.3af 対応受電機器 1 台へ PoE 給電することができます。※2

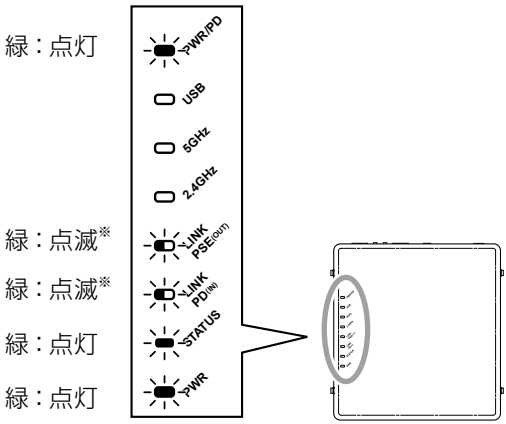
動作確認済みの PoE パススルー機器の詳細は当社製品ページでご確認ください。

電源供給元		本製品 WAB-M1775-PS の動作		PoE パススルー機能使用 (IEEE802.3af 対応受電機器)
		USB メモリー使用なし	USB メモリー使用あり	
PoE 給電	IEEE802.3at 準拠	○	○※1	○※2
	IEEE802.3af 準拠	○	○	×
専用 AC アダプター		○	○	×

※ 1 PoE パススルー機能と同時にご利用いただけません。
※ 2 当社動作確認機器もしくは Class 2 以下の IEEE802.3af 対応受電機器が電源供給可能です。

> ***MEMO***
> - IEEE802.3at または IEEE802.3af 対応 PoE 給電機器は、本製品の PD (IN)Ether ポートに接続してください。本製品に電力が供給されます。
> - 本製品と PoE 給電機器を接続する LAN ケーブルには、必ず CAT5e 以上の 4 対 UTP を使用してください。

③ 本製品の LED が以下の状態になっていることを確認します。(起動完了まで約 40 秒程度)

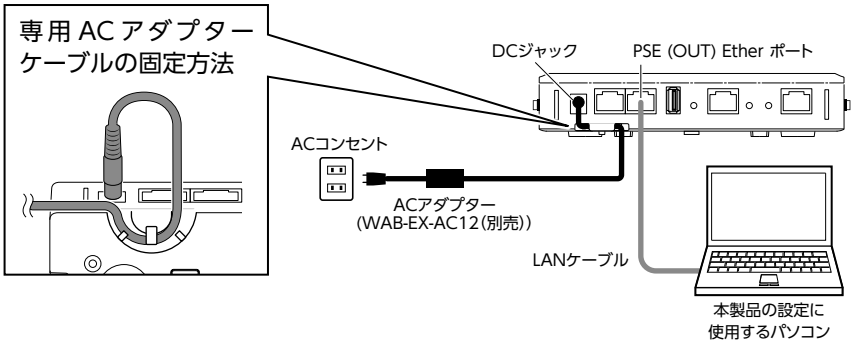


※ 通信状態により点灯または不定期に点滅します。

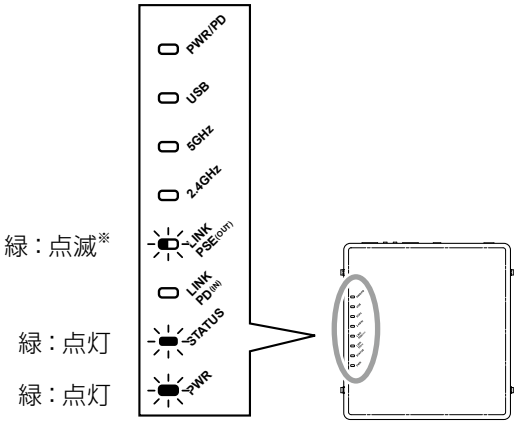
別売のACアダプター(WAB-EX-AC12)を使用する場合

① 本製品のPSE(OUT) Etherポートと、本製品の設定に使用するパソコンをLANケーブルで接続します。

② 本製品のDCジャックに別売のACアダプター(WAB-EX-AC12)を接続し、ACコンセントにAC アダプター(WAB-EX-AC12)を差し込みます。
本製品の電源がON になります。



③ 本製品のLED が以下の状態になっていることを確認します。(起動完了まで約40 秒程度)



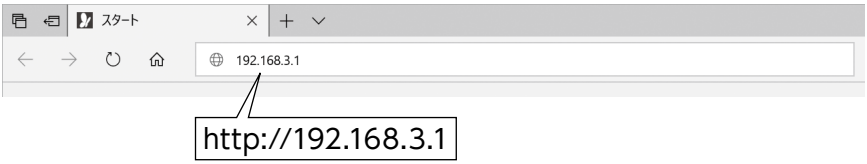
※ 通信状態により点灯または不定期に点滅します。

STEP2 本製品の設定画面で無線を有効にする

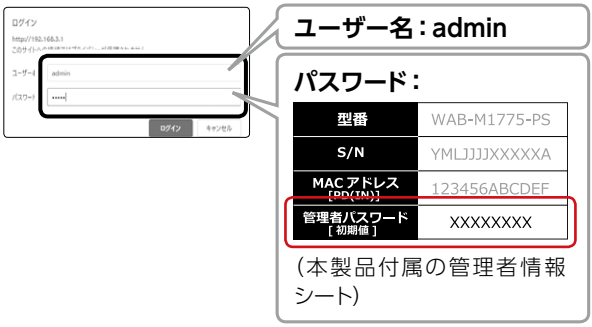
1 設定画面へアクセスします。

① Webブラウザー※を起動し、アドレスバーに次のIPアドレスを入力します。

※Safari、Chrome、Microsoft Edge、Internet Explorerなど



② ログイン画面が表示されたら、初期設定のユーザー名とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



設定画面が表示されます。

2 無線を有効にします。

① 設定画面で[無線設定]をクリックします。

② 使用する無線モード(2.4GHzまたは5GHz)の[基本設定]をクリックします。

③ [無線]の「有効」をクリックして選択し、[適用]ボタンをクリックします。
カウントダウンが始まりますので、しばらくお待ちください。

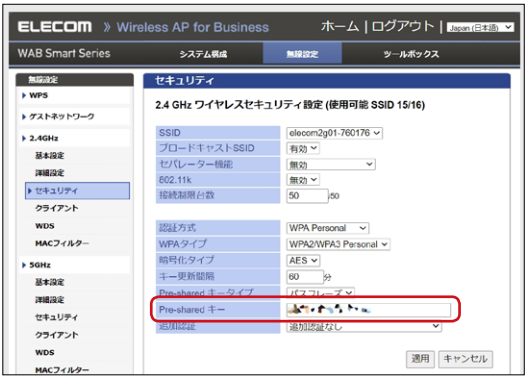
3 無線のセキュリティを設定します。

① 使用する無線モード (2.4GHzまたは5GHz)の [セキュリティ]をクリックします。

② [認証方式]から[WPA Personal]を選択します。

③ [Pre-shared キー]に半角英数8 ～ 63 文字以内でキーを入力し、[適用]ボタンをクリックします。

カウントダウンが始まりますので、しばらくお待ちください。
本製品が再起動されると、設定は完了です。
設定画面を終了する場合は、Webブラウザーを閉じてください。



MEMO

ここでは、次のとおりに設定しています。

認証方式	WPA Personal
WPAタイプ	WPA2/WPA3 Personal
暗号化タイプ	AES

実際に設定する場合は接続する子機の無線対応規格に合わせてセキュリティ設定を行ってください。
セキュリティの詳細な説明は、設定リファレンス編 無線設定「セキュリティ」(60ページ以降)をご確認ください。

設置編

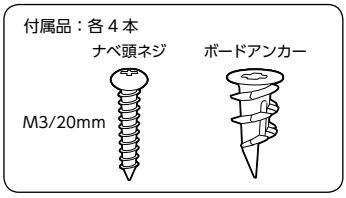
本製品を取り付ける **21**
セキュリティカバー付きで設置する方法 21
マグネットで設置する方法 24
マグネット用プレートで設置する方法 25
本製品をブラケットから取り外す **26**
LANに接続する **27**
PoE給電機器を使用する場合 27
別売のAC アダプター（WAB-EX-AC12）を使用する場合 28
アンテナ（オプション）の取り付け方法 **29**

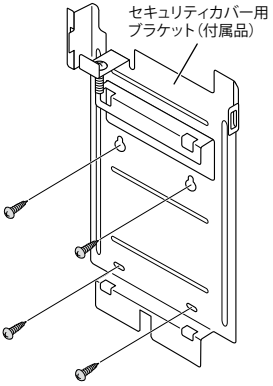
本製品を取り付ける

セキュリティカバー付きで設置する方法

本製品には、専用のセキュリティカバーが付属しています。セキュリティカバーを取り付けることにより、盗難やケーブルを抜く・挿すなどのいたずらの防止になります。

1 付属の木ネジを使い、セキュリティカバー用ブラケットを壁や天井へ取り付けます。





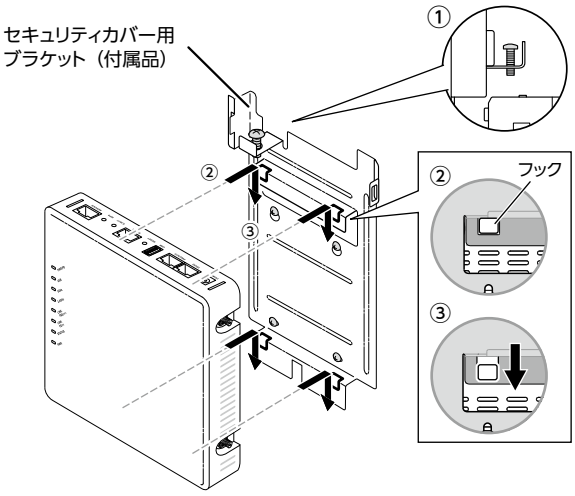
2 ブラケットに本製品を取り付けます。

① 付属の脱落防止ネジ（T20）を全体の2/3程度ゆるめます。

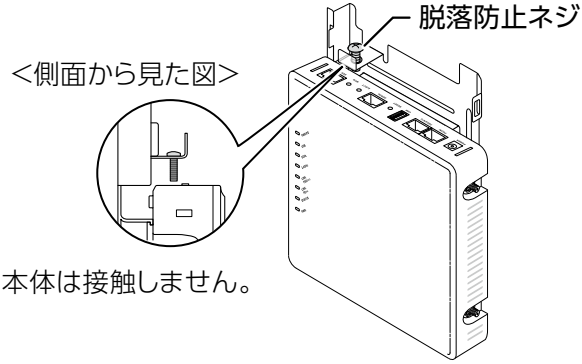
② 本製品の背面のフックをセキュリティカバー用ブラケットにはめます。

③ 本製品を下方向にずらして固定します。

＜側面から見た図＞



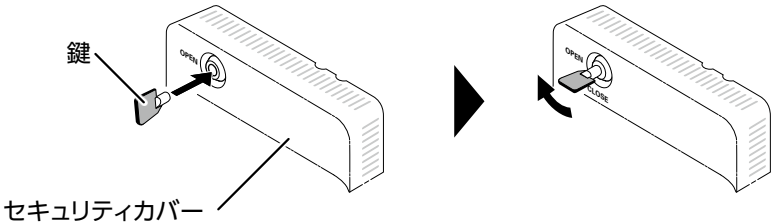
3 **イラストを参考に、ゆるめた脱落防止ネジをネジが固定される位置までしめなおします。**



※ ネジと本体は接触しません。

重要 セキュリティカバーを使用する場合は、必ず付属の脱落防止ネジを取り付けてください。
脱落防止ネジを使用しない場合、振動等により本製品が脱落する場合があります。

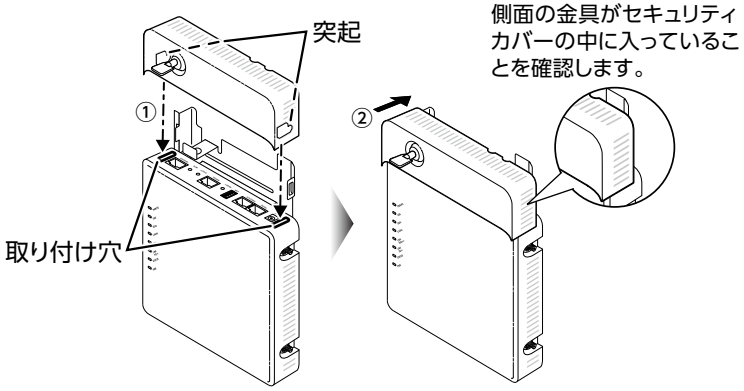
4 **セキュリティカバーに付属の鍵を鍵穴に挿入し、鍵をOPEN側に向けます。**



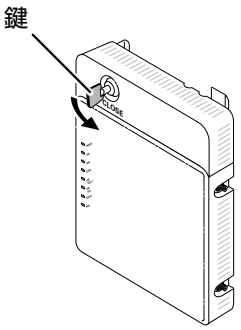
5 セキュリティカバーを本体に取り付けます。

① セキュリティカバー下側にある突起を本体の取り付け穴に差し込みます。

② セキュリティカバーを奥側に押して固定します。



6 鍵をCLOSE側に回し、セキュリティカバーをロックします。

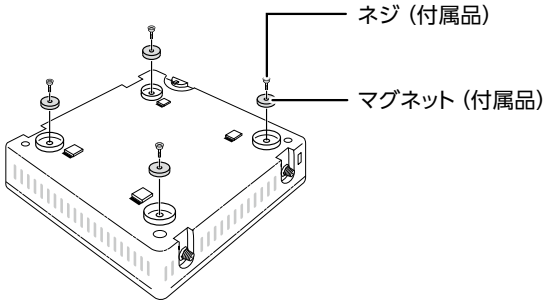


7 鍵を鍵穴から引き抜きます。

マグネットで設置する方法

1 本体背面に本製品に付属のマグネットをネジで取り付けます。

磁性体の壁面へ取り付け可能です。



重要 本製品が破損する恐れがあるので、締めすぎないようにしてください。

2 磁性体の壁面へ取り付けます。

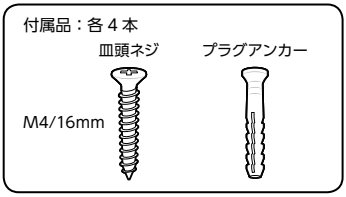
重要 取り付け後、本製品が落下しないことを確認してください。

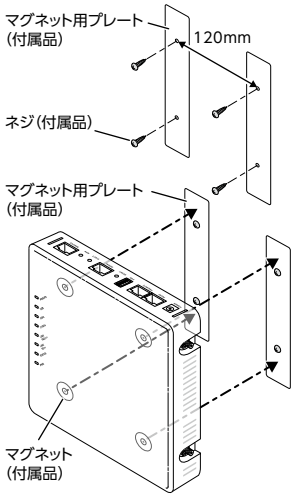
マグネット用プレートで設置する方法

マグネット用プレートを使用し、磁性体以外の壁面へ取り付けることができます。

1 **24 ページの方法で本体背面にマグネットを取り付けます。**

2 **マグネットの位置に合わせて、付属の木ネジでマグネット用プレートを壁へ取り付けます。**





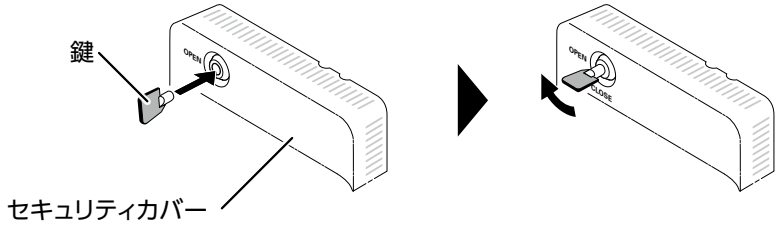
重要 取り付け後、本製品が落下しないことを確認してください。

3 **本製品の背面のマグネットをマグネット用プレートに貼り付けて設置します。**

本製品をブラケットから取り外す

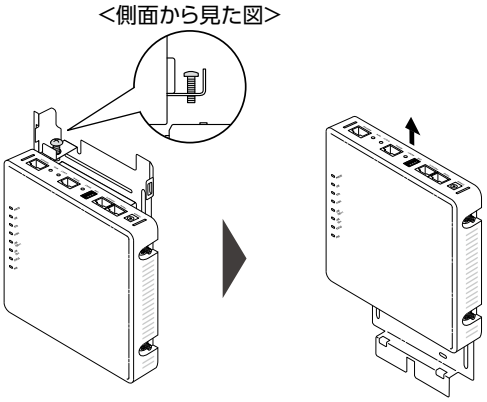
1 本体からブラケットカバーを取り外します。

① セキュリティカバーに鍵を差し込み、OPEN側にします。



② セキュリティカバーを本体から取り外します。

2 脱落防止ネジ（T20）を全体の2/3程度ゆるめ、本体を矢印の方向にスライドしてブラケットから取り外します。

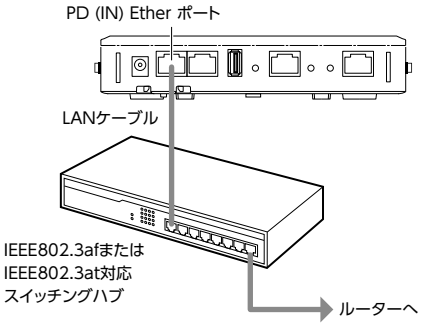


LANに接続する

設置が完了したら、本製品を以下のようにLANに接続します。

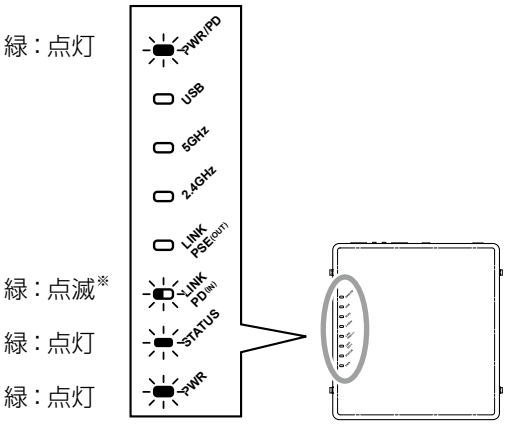
PoE給電機器を使用する場合

以下のように接続します。



重要 **本製品とIEEE802.3afまたはIEEE802.3at対応PoE給電機器を接続するLANケーブルには、必ずCAT5e以上の4対UTPを使用してください。**

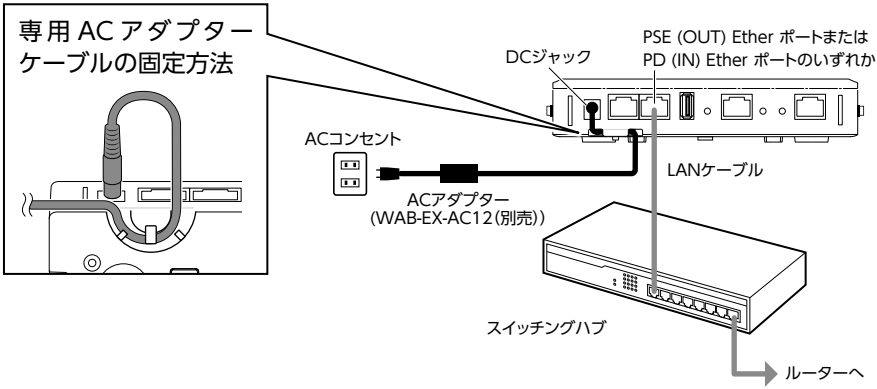
正常に接続されると、LEDランプは以下の状態になります。



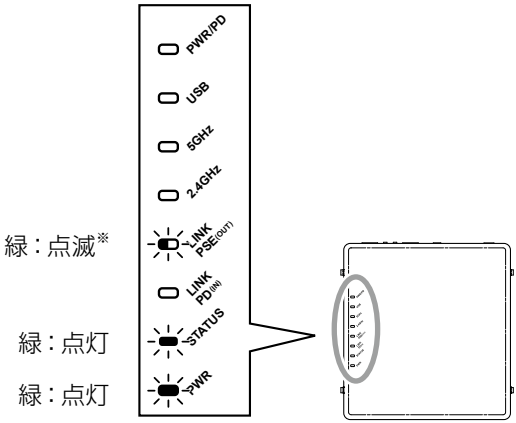
※ 通信状態により点灯または不定期に点滅します。

別売のAC アダプター(WAB-EX-AC12)を使用する場合

以下のように接続します。



正常に接続されると、LED ランプは以下の状態になります。



※ 通信状態により点灯または不定期に点滅します。

アンテナ（オプション）の取り付け方法

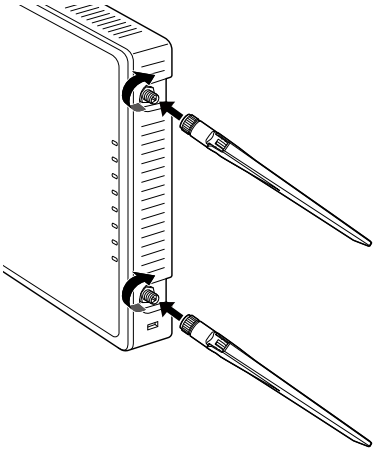
本製品は内部アンテナと外部アンテナのいずれかに出力を切り替えることが可能です。
設置場所に応じて柔軟なネットワーク設計が可能です。

重要

本製品のアンテナ端子に、当社指定のオプションアンテナ以外を取り付けて使用することは電波法違反となります。
絶対に当社指定のアンテナ以外を取り付けて使用しないでください。

オプションアンテナ型番：WAB-EX-ANT1

1 本体のアンテナ端子４箇所に専用アンテナをそれぞれ時計回りに回して取り付けます。



MEMO

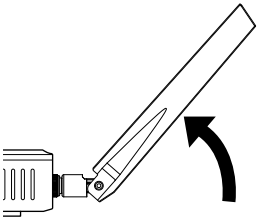
アクセスポイント本体のアンテナ端子には出荷時に保護キャップが取り付けてあります。
アンテナを取り付ける前にあらかじめ外してください。

重要

- **アンテナ端子を手で触れないでください。故障の原因となります**
- **アンテナが破損する恐れがありますので、イラストのようにアンテナの根本部分を持って取り付けてください。**

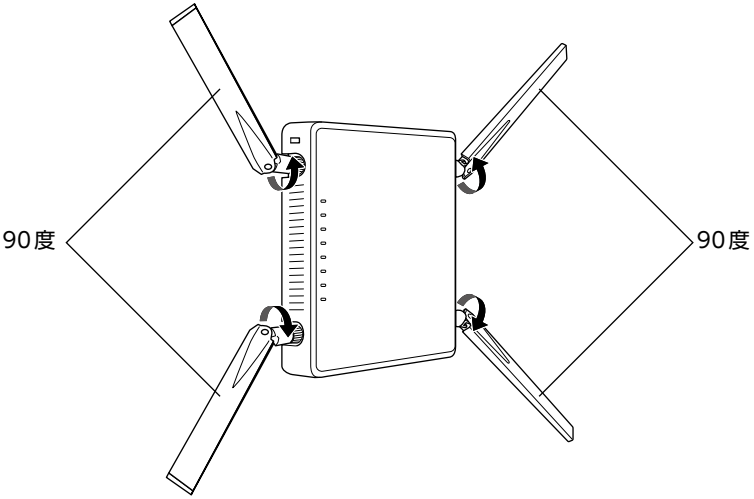
2 アンテナの角度を調整します。

① アンテナを45度の角度に曲げます。



カクッと止まる位置まで曲げます。

② アンテナの面同士が90度の角度に
なるようアンテナの位置を調整します。



MEMO

上記アンテナ角度は、もっとも基本的な設置角度となります。
環境により最適なアンテナ角度が異なる場合もありますので、その場合はアンテナの角度調整を実施してください。

設定リファレンス編

管理画面(設定画面)を表示する 33

各メニューについて 35

システム構成 35

無線設定 36

ツールボックス 37

システム構成 38

システム情報 38

LAN側IPアドレス 39

LANポート 41

VLAN 43

ログ 45

Syslogサーバー 46

無線設定 47

WPS 47

ゲストネットワーク 49

2.4GHz/5GHz 53

基本設定 53

詳細設定 56

セキュリティ 60

クライアント 65

WDS 66

MACフィルター 68

RADIUS 70

RADIUS設定 70

内部RADIUS サーバー 72
ユーザー認証 73
WMM 75
スケジュール 77
スケジュールの設定画面 78
Link Integrity 79
ワイヤレスモニター 80
災害モード 82
ツールボックス 84
管理者 84
日時 87
設定を保存/復元 89
初期化 92
ファームウェア更新 93
ファームウェア更新 93
ファームウェア確認 94
I'm here 100
節電 101
再起動スケジュール 103
LED設定 104
再起動 105

管理画面(設定画面)を表示する

本製品の各種設定をするために、Webブラウザーから利用できる設定画面があります。
各ボタンの詳しい内容や設定方法については、該当ページをお読みください。

1 本製品の設定に使用するパソコンのネットワークを設定します。

IPアドレス：192.168.3.xxx
xxxは、2 ～ 254までの任意の数字にします。

2 本製品に接続しているパソコンのブラウザーを開き、以下のWebページを表示します。

認証画面が表示された場合は、ユーザー名に「admin」、パスワードに「管理者情報シート」に記載された「管理者パスワード(初期値)」の8桁英数字を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

http://192.168.3.1/

初期設定のユーザー名	admin
初期設定のパスワード	XXXXXXXX (管理者情報シートに記載の 8 桁のパスワード)

ユーザー名：admin

パスワード：

型番	WAB-M1775-PS
S/N	YMLJJJJXXXXXA
MACアドレス [PD(1N)]	123456ABCDEF
管理者パスワード [初期値]	XXXXXXXX

(本製品付属の管理者情報シート)

設定画面が表示されます。

● ご利用のブラウザー（Chrome など）のバージョンによっては「保護されていない」などの警告が表示される場合がありますが、セキュリティ上問題ありません。そのまま操作を続けてください。

重要 **設定を変更した場合は、必ず「適用」をクリックして設定を保存してください。「適用」をクリックせずに他の画面に移動すると、設定が変更されません。**

各メニューについて

■ システム構成

メニュー項目	内容
システム情報	本製品の IP アドレスや本製品に接続している機器の情報などを表示します。 → 38 ページ
LAN 側 IP アドレス	LAN 側の IP アドレス、DNS サーバーの設定を行います。 → 39 ページ
LAN ポート	有線 LAN ポートの設定を行います。 → 41 ページ
VLAN	インターフェイス VLAN の設定を行います。 → 43 ページ
ログ	システムログを表示します。 → 45 ページ
Syslog サーバー	Syslog サーバーの設定を行います。 → 46 ページ

■ 無線設定

メニュー項目	内容
WPS	WPS 機能による接続ができます。 → 47 ページ
ゲストネットワーク	ゲストユーザーが本製品を経由して、一時的にインターネットにのみアクセスできるゲストネットワークを設定します。 → 49 ページ
2.4GHz ／ 5GHz	2.4GHz および 5GHz の無線設定を行います。 → 53 ページ
RADIUS	無線機器の認証などで使用する RADIUS サーバーを設定します。 → 70 ページ
WMM	QoS や WMM-EDCA の設定を行います。 → 75 ページ
スケジュール	無線を有効にする曜日と時間帯を設定します。 → 77 ページ
Link Integrity	定期的にネットワークの接続確認を行い、切断を感知した場合にインターフェースごとに動作するアクションを設定することができます。 → 79 ページ
ワイヤレスモニター	本製品に接続している無線子機を表示します。 本製品に接続する機器を MAC アドレスによってフィルタリングすることもできます。 → 80 ページ
災害モード	災害モードの有効／無効を設定します。 → 82 ページ

■ ツールボックス

メニュー項目	内容
管理者	本製品の設定画面にログインするためのアカウントや本製品の詳細設定について設定します。 → 84 ページ
日時	本製品の内部時計を設定します。日付と時刻、NTP サーバー、タイムゾーンを設定できます。 → 87 ページ
設定を保存／復元	設定内容を復元したり、バックアップすることができます。 → 89 ページ
初期化	工場出荷時の状態に戻します。 → 92 ページ
ファームウェア更新	ファームウェアを更新することができます。 → 93 ページ
I'm here	設置場所を特定するために、本製品のブザーを鳴らします。 → 100 ページ
節電	節電機能を有効にすることができます。 → 101 ページ
再起動スケジュール	再起動スケジュールを設定することができます。 → 103 ページ
LED 設定	本体 LED ランプのオン／オフを設定します。 → 104 ページ
再起動	本製品を再起動します。 → 105 ページ

システム構成

システム情報

本製品の IP アドレスや本製品に接続している機器の情報などを表示します。

項目	内容
システム	本製品に関する情報を表示します。モードによって表示は異なります。
無線 2.4GHz 11b/g/n/ax	本製品の 2.4GHz に関する状態と 2.4GHz 帯に接続している機器を表示します。
無線 5GHz 11a/n/ac/ax	本製品の 5GHz に関する状態と 5GHz 帯に接続している機器を表示します。

LAN側IPアドレス

有線LAN のIP アドレスの割り当てなどについて設定します。

項目	内容		
LAN 側 IP アドレス	IP アドレス割り当て	IP アドレスの割り当て方法を次の中から選択します。 (初期値 : DHCP クライアント)	
		DHCP クライアント	DHCP サーバーから IP アドレスやサブネットマスクなどの必要な情報を自動的に割り当てます。
		静的 IP アドレス	IP アドレスやサブネットマスクを手動で設定します。
	IP アドレス	「IP アドレスの割り当て」の設定を「静的 IP アドレス」とした場合は静的 IP アドレスを設定します。 (初期値 : 192.168.3.1) 「IP アドレスの割り当て」の設定を「DHCP クライアント」とした場合は、取得した IP アドレスが表示されます。	
	サブネットマスク	「IP アドレスの割り当て」の設定を「静的 IP アドレス」とした場合はサブネットマスクを設定します。 (初期値 : 255.255.255.0) 「IP アドレスの割り当て」の設定を「DHCP クライアント」とした場合は、取得したサブネットマスクが表示されます。	

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>DNS サーバー</td><td>
<table>
<tr><td>プライマリアドレス</td><td>DNS サーバーのプライマリアドレスの割り当て方法を次の中から選択します。（初期値：DHCP）
<table>
<tr><td>DHCP クライアント</td><td>DHCP サーバーから DNS サーバーのプライマリアドレスを自動的に割り当てます。</td></tr>
<tr><td>ユーザー定義</td><td>DNS サーバーのプライマリアドレスを手動で設定します。（初期値：空欄）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>セカンダリアドレス</td><td>セカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを設定します。（「プライマリアドレス」を「ユーザー定義」に設定した場合）
（初期値：空欄）</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

LANポート

本製品のLANポートについて設定します。

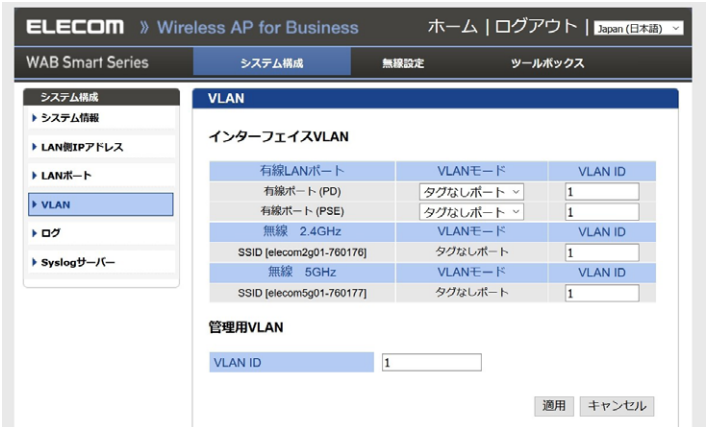
項目	内容
有線 LAN ポートの設定	**有効**：無効に設定すると、LAN ポートでの通信ができなくなります。 **速度と通信方式**：イーサネットの通信速度と通信方式を次の中から選択します。（初期値：自動）

自動	自動的に接続先の機器とのネゴシエーションを行い、適切な通信速度の設定が設定されます。 通常は、「自動」を選択してください。 接続先の機器を自動的に判別できない場合は、他の設定を選択してください。
10Mbps 半二重通信方式	10BASE-T、半二重（Half Duplex）通信方式で通信します。
10Mbps 全二重通信方式	10BASE-T、全二重（Full Duplex）通信方式で通信します。
100Mbps 半二重通信方式	100BASE-TX、半二重（Half Duplex）通信方式で通信します。
100Mbps 全二重通信方式	100BASE-TX、全二重（Full Duplex）通信方式で通信します。
1000Mbps 全二重通信方式	1000BASE-T、全二重（Full Duplex）通信方式で通信します。

項目	内容	
有線 LAN ポートの設定	MDI	接続先の機器のポートの種類です。 この項目は「自動」のみ選択できます。
	フロー制御	フロー制御の「有効」または「無効」を設定します。 (初期値：有効) 「有効」に設定すると、受信側のバッファがあふれ、データの取りこぼし（オーバーフロー）を検出したときに、通信を制御します。

VLAN

LANポートおよび無線のVLANについて設定します。



項目	内容		
インターフェイス VLAN	VLAN モード	VLAN の設定をします。 (初期値：タグなしポート)	
		タグなしポート	Ether ポートをタグなしのポートとして設定します。 設定した VLAN ID のフレームのみがこのポートへ転送されます。
		タグ付きポート	Ether ポートをタグ付きのポートとして設定します。 ポートで送受信するすべてのフレームに IEEE802.1Q 準拠の VLAN タグが付与されます。 受信したフレームをすべて転送することができます。
	VLAN ID	「VLAN モード」で「タグなしポート」を選択した場合に、インターフェース VLAN に関連づける VLAN のネットワーク ID を 1 ～ 4094 の範囲で入力します。 (初期値：1) VLAN ID が異なる Ether ポートやネットワークと通信することはできません。	
管理用 VLAN	VLAN ID	管理用 VLAN のネットワーク ID を 1 ～ 4094 の範囲で入力します。(初期値：1)	

MEMO

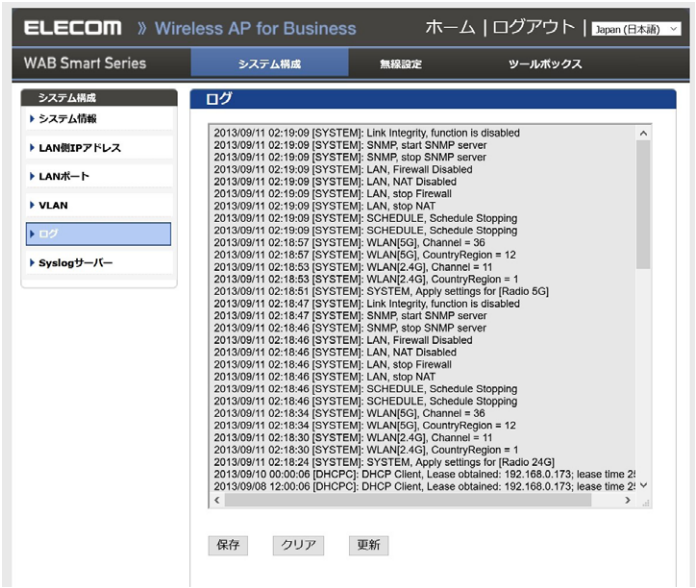
有線LANから管理用VLANへのアクセスできるようにするために、VLANの設定を次のいずれかの条件に適合させてください。

・いずれかのEtherポートがタグ付きポート
・両方のEtherポートがタグなしポートの場合は、いずれかのポートのVLAN IDが管理VLAN IDと同じ

重要 **VLAN 設定を変更した場合は、操作が中断されることがあります。**

ログ

システムログを表示します。



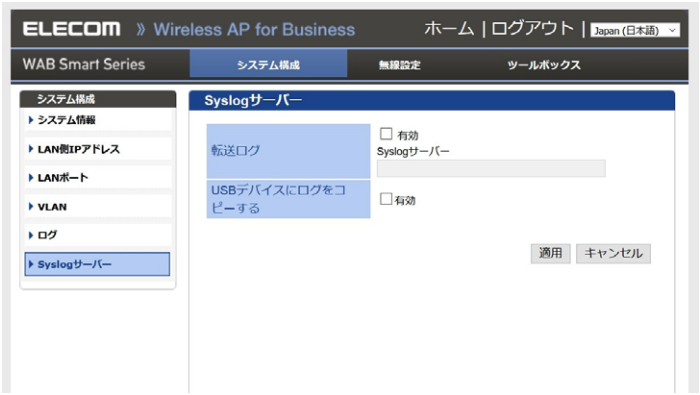
項目	内容
保存	表示されているログ内容をテキストデータでダウンロードします。 1 つのファイルに 2500 行程度のログを保存します。
クリア	表示されているログ内容を削除します。
更新	ログ内容を最新のものに更新します。

MEMO

本製品が再起動されると表示されているログはクリアされます。

Syslogサーバー

Syslogサーバーの設定を行います。



項目	内容
転送ログ	ログ情報転送機能を有効にする場合はチェックします。 (初期値：チェックなし) 有効に設定した場合は、Syslog サーバーの IP アドレスを入力してください。 (初期値：空欄)
USB デバイスにログをコピーする	本製品に挿入した USB メモリーにログ情報を転送する場合はチェックします。(初期値：チェックなし) この機能を使用する場合は、あらかじめ書き込み可能な対応 USB メモリーを本製品の USB ポートに挿入しておいてください。 USB メモリーの容量がいっぱいになると、ログに表示され、STATUS の LED が赤点滅します。 ログファイルの保存タイミング：電源 OFF/ON 時、再起動時 ログファイル数の保存上限：最大 10,000 ファイル　(USB メモリーの容量により 10,000 ファイル以下になる場合もあります)

WPS

WPS（Wi-Fi Protected Setup）機能の設定をします。

項目	内容
WPS	本製品の WPS 機能は初期値が有効です。無効にする場合は「有効」のチェックをはずし「適用」をクリックしてください。

PIN	本製品の PIN コードです。子機に入力するために使用します。「PIN 生成」をクリックすると、新しい PIN コードを発行できます。 初期値では PIN コードの桁が少ない場合があります。その場合は、「PIN 生成」をクリックして、新しい PIN コードをご使用ください。
プッシュボタン WPS	「スタート」をクリックすると、WPS 接続を開始できます。（このとき、PIN コードの入力は必要ありません。）
PIN による WPS	接続する無線子機の PIN コードを設定します。PIN コードを入力し、「スタート」をクリックします。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>WPS セキュリティ</td><td>WPS 機能を実行したときに反映される設定内容を表示します。
解除をクリックすると未構成の状態になります。
<table>
<tr><td>未設定</td><td>2.4GHz または 5GHz の設定が未設定です。</td></tr>
<tr><td>設定済み</td><td>2.4GHz、5GHz それぞれの設定が設定済です。
WPS の接続先となる次の情報が表示されます。
SSID、セキュリティ、暗号化キー</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

ゲストネットワーク

ゲストユーザーが本製品を経由して、一時的にインターネットにのみアクセスできるゲストネットワークを設定します。通常使用しているネットワークとは分離したネットワークを提供しますので、安心してお使いいただけます。
ゲストネットワークの設定方法については107ページ「ゲストネットワークを設定する」をご参照ください。

MEMO
ゲストネットワークには、以下の制限が適用されます。
- ゲストネットワークによる接続は、http（80番ポート）／ https（443番ポート）など、ホームページ閲覧・メール送受信に関するポートのみに制限されます。（設定変更で制限なく利用も可能です。）
- 通信制限による、別セグメントのサーバーやプリンターなどへのアクセスは制限されません。

項目	内容
ゲストネットワーク	ゲストネットワーク機能の「有効」または「無効」を設定します。 (初期値：無効)
無線	無線 LAN の帯域を「2.4GHz」または「5GHz」から選択します。 (初期値：2.4GHz)
SSID の選択	ゲストネットワーク用に使用する SSID を選択します。
SSID	ゲストネットワークの SSID を入力します。 (初期値：elecom2g01-XXXXXX（2.4GHz）または elecom5g01-XXXXXX（5GHz)) 設定した SSID は [SSID の選択] の選択肢に反映されます。
DHCP IP アドレス	ゲストネットワークで適用する DHCP サーバーの IP アドレスを入力します。(初期値：192.168.169.1)
DHCP サブネットマスク	ゲストネットワークで適用する DHCP サーバーのサブネットマスクを入力します。(初期値：255.255.255.0)
DHCP リース期間	ゲストネットワークで適用する DHCP サーバーから割り振られる IP アドレスのリース期間を次の中から選択します。(初期値：2 時間) 「30 分」、「1 時間」、「2 時間」、「12 時間」、「1 日」、「2 日」、「1 週間」、「2 週間」、「無期限」
DHCP 開始 IP アドレス	ゲストネットワークに接続する無線機器に割り当てる IP アドレスの開始 IP アドレスを入力します。(初期値：192.168.169.100)
DHCP 終了 IP アドレス	ゲストネットワークに接続する無線機器に割り当てる IP アドレスの終了 IP アドレスを入力します。(初期値：192.168.169.200)
ゲスト接続可能時間※	ゲストネットワークに接続できる時間を設定します。(初期値：6 時間)
接続制限時間※	ゲストネットワークへ接続できない時間を設定します。(初期値：12 時間)
接続可能回数※	「接続制限時間」内に複数回の接続を許可することも可能です。「ゲスト接続可能時間」経過後、接続可能回数の範囲内であれば、再度接続が可能になります。 「ゲスト接続時間」x「接続可能回数」が、「接続制限時間」以下になるように、時間・回数を設定してください。 (初期値：2 回)
認証タイプ	ゲストネットワークで適用する認証タイプを設定します。 「認証なし」「認証画面」「E-MAIL 認証」(初期値：認証なし)

※ この機能は認証タイプが「認証画面」または「E-MAIL 認証」のときに利用可能です。

項目	内容
接続制限台数	ゲストネットワークに接続するクライアントの最大同時接続台数を設定します。（設定範囲は、1 ～ 128（初期値 128））
公開用 AP 名称 （「認証用タイプ」に「認証画面」「E-MAIL 認証」を選択しているときのみ）	認証画面、認証用メールに記載される、アクセスポイントの名称です。 （初期値：システム情報画面の「製品名」の名称）

＜E-MAIL 認証（「認証タイプ」に「E-MAIL 認証」を選択しているときのみ）＞

項目	設定内容
送信元電子メールアドレス	ID とパスワードを送付するメールアドレスを設定します。
SMTP サーバーアドレス	メールを送信する SMTP サーバーのアドレスを設定します。
SMTP サーバーポート	SMTP サーバーで使用する認証に合わせたポート番号を設定します。 （465：SSL、587：TLS）
有効認証	SMTP サーバーで使用する認証を「SSL」または「TLS」から選択します。
アカウント	SMTP サーバーを使用するためのアカウント名とパスワードを入力します。
パスワード	

＜通信制限＞

項目	内容	
利用可能ポート	ゲストネットワークに接続したクライアントが、インターネットと通信できるポート番号を制限します。（初期値：Web・メールのみ）	
	制限なし	制限を行わずすべてのポートでの通信を可能にします。
	Web・メールのみ	Web およびメールに関するポート番号の通信のみ許可します。「ポートの編集」ボタンをクリックすると、利用可能なポート番号を無効化することも可能です。
	ポートの編集	ポートごとに有効／無効を切り替えることができます。 初期状態では、以下のポートが利用可能です。 HTTP：80、HTTPS：443、HTTP Proxy：8080、SMTP：25、 POP3：110、IMAP：143、SMTPS：465、POP3S：995、 IMAPS：993、Submission：587

<トラフィックシェーピング>

項目	内容
トラフィックシェーピング	トラフィックシェーピング機能の「有効」または「無効」を設定します。 (初期値：無効) 「有効」に設定した場合は、通信量を制御し、パケットを遅延させることで帯域幅を確保します。
レート制限	制限する通信量（kbps）を入力します。100 ～ 43000kbps の間で入力可能です。 (初期値：100)

<管理者デバイスのMACアドレス>

項目	内容
管理者デバイスの MAC アドレス	ゲストネットワークから設定ユーティリティへアクセス可能な管理者の MAC アドレスを登録します。 (ゲストネットワークからは、通常のユーザーは設定ユーティリティ画面へアクセスできません)

2.4GHz/5GHz

2.4GHzおよび5GHzの無線設定を行います。

■ 基本設定

画面は2.4GHzの無線を有効にした場合です。

項目	内容
無線	無線 LAN 機能の「有効」または「無効」を設定します。(初期値：無効)
無線通信モード	2.4GHz 帯の無線通信モードを次の中から選択します。無線 LAN の帯域によって設定できる項目が異なります。 (初期値：2.4GHz 11b/g/n/ax、5GHz 11a/n/ac/ax) **2.4GHz の場合** **11b**：IEEE802.11b 規格だけを使用します。 **11g**：IEEE802.11g 規格だけを使用します。 **11b/g**：IEEE802.11b/g 規格を使用します。 **11g/n**：IEEE802.11g/n 規格を使用します。 **11b/g/n**：IEEE802.11b/g/n 規格を使用します。 **11b/g/n/ax**：IEEE802.11b/g/n/ax 規格を使用します。 **5GHz の場合** **11a**：IEEE802.11a 規格だけを使用します。 **11a/n**：IEEE802.11a/n 規格を使用します。 **11n/a/ac**：IEEE802.11n/a/ac 規格を使用します。 **11a/n/ac/ax**：IEEE802.11a/n/ac/ax 規格を使用します。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>有効 SSID 数</td><td>有効にする SSID の個数を設定します。（初期値：1（SSID1 のみ有効））
2.4GHz、5GHz それぞれ 16 個まで設定できます。（SSID1 ～ SSID16）
SSID の数が多くなるほど負荷がかかり、通信速度が遅くなる場合があります。</td></tr>
<tr><td>SSID1 ～ 16</td><td>「有効 SSID 数」で有効にした個数の SSID と VLAN ID を設定します。
（SSID の初期値:elecom" 周波数帯 ""SSID 番号 "-"MAC アドレスの下 6 桁 "）
※ " 周波数帯 " は、2.4GHz：2g、5GHz：5g となります。
例えば、" 周波数帯 " が 2.4GHz、"SSID 番号 " が 1、"MAC アドレスの下 6 桁 " が 12:34:56 のとき SSID は、「elecom2g01-123456」となります。
SSID は初期値から変更することができます。（半角英数字および半角記号で、1 ～ 32 文字まで設定できます。大文字と小文字は区別されます。）
<table><tr><td>VLAN ID</td><td>各 SSID に 1 ～ 4094 までの整数値で固有の VLAN ID を設定します。（初期値：1）（※アクセスポイントモード時のみ対応）</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>オートチャンネル</td><td>オートチャンネル機能の「有効」または「無効」を設定します。（初期値:無効）
「有効」に設定すると空きチャンネルを自動検出します。</td></tr>
</table>

●オートチャンネルが無効の場合

<table>
<tr><td>チャンネル</td><td>使用チャンネルを設定します。
<table><tr><td>2.4GHz の場合</td><td>Ch1 ～ 13（初期値：Ch11）</td></tr><tr><td>5GHz の場合</td><td>Ch 36、40、44、48、52（DFS）、56（DFS）、60（DFS）、64（DFS）、100（DFS）、104（DFS）、108（DFS）、112（DFS）、116（DFS）、120（DFS）、124（DFS）、128（DFS）、132（DFS）、136（DFS）、140（DFS）、144（DFS）（初期値：Ch36）</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>チャンネル帯域幅</td><td>無線 LAN が帯域により使用する追加チャンネルを選択します。
<table><tr><td>2.4GHz の場合</td><td>「20MHz」、「Auto, +Ch（-4）」、「40MHz, +Ch（-4）」
（初期値：Auto, +Ch（-4））</td></tr><tr><td>5GHz の場合</td><td>「20MHz」、「40MHz, +Ch 40」、「Auto, 80/40/20MHz」
（初期値：20MHz）</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>BSS
BasicRateSet</td><td>本製品と無線機器の管理・制御通信フレームの通信速度を選択します。
設定を変更した場合に問題がある場合は、初期値を使用してください。
<table><tr><td>2.4GHz の場合</td><td>「1，2Mbps」、「1，2，5.5，11Mbps」、「1，2，5.5，6，11，12，24Mbps」、「all」（初期値：1，2，5.5，11Mbps）</td></tr><tr><td>5GHz の場合</td><td>「6，12，24 Mbps」、「all」（初期値：6，12，24Mbps）</td></tr></table></td></tr>
</table>

●オートチャンネルが有効の場合

オートチャンネル範囲

チャンネルで使用する周波数帯を選択します。

2.4GHz の場合	「Ch 1 - 11」、「Ch 1 - 13」（初期値 Ch 1 - 11）
5GHz の場合	「W52」、「W52+W53」、「W52+W53+W56」※ （初期値 W52+W53+W56）

※ W52：36/40/44/48ch
W53：52/56/60/64ch
W56：100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch

MEMO

- 近い周波数帯を使用した無線機器が本製品の通信速度に影響を与えることがあります。チャンネルを変更して異なる周波数帯を設定してください。
- W53 および W56 のチャンネルでは、DFS（Dynamic Frequency Selection）機能が有効になります。これは、気象・管制レーダー等への混信を避けるために、自動的に使用している周波数帯を変更する機能です。自動変更が発生したときに無線通信が一時停止することがあります。
- W52 および W53 は屋外で利用できません。W56 は屋外で利用できます。

オートチャンネル間隔

チャンネルを変更する間隔を次の中から選択します。「オートチャンネル」が「有効」の場合のみ設定できます。（初期値：30 分）
「30 分」、「1 時間」、「2 時間」、「12 時間」、「1 日」、「2 日」

クライアントが接続している場合でも、チャンネルを変更する	本製品に無線子機を接続しているときでも自動的にチャンネルを変更します。

チャンネル帯域幅

無線 LAN が帯域により使用する追加チャンネルを選択します。

2.4GHz の場合	「20MHz」、「Auto」、「40MHz」 （初期値：Auto）
5GHz の場合	「20MHz」、「Auto 40/20MHz」、「Auto 80/40/20MHz」 （初期値：Auto 80/40/20MHz、） ● 最大 2 つのチャンネルを使用する場合は「Auto 40/20MHz」、最大 4 つのチャンネルを使用する場合は「Auto 80/40/20MHz」を選択してください。

BSS BasicRateSet

本製品と無線機器の管理・制御通信フレームの通信速度を選択します。
設定を変更した場合に問題がある場合は、初期値を使用してください。

2.4GHz の場合	「1, 2Mbps」、「1, 2, 5.5, 11Mbps」、 「1, 2, 5.5, 6, 11, 12, 24Mbps」、「all」 （初期値：1, 2, 5.5, 6, 11,12, 24Mbps）
5GHz の場合	「6, 12, 24 Mbps」、「all」（初期値：6, 12, 24Mbps）

■ 詳細設定

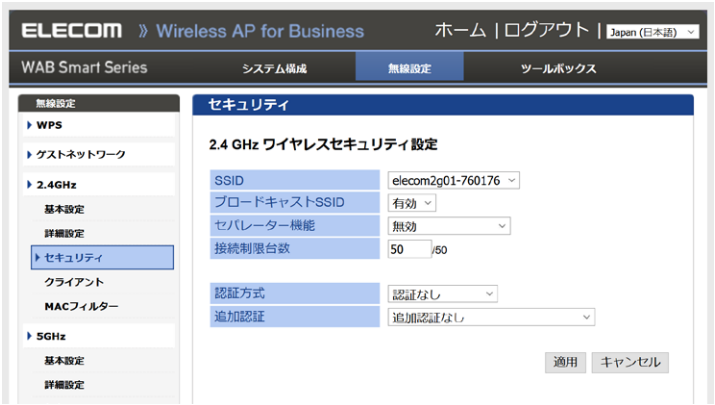
項目	内容
コンテンションスロット (2.4GHz のみ)	コンテンションスロットを「Short」または「Long」から選択します。 (初期値：Short) 本製品と、接続する無線機器のコンテンツスロット設定を同じ「Short」に設定すると、通信速度が向上する場合があります。 接続する無線機器が「Short」に対応していない場合は、接続ができないことがあります。
プリアンブルタイプ (2.4GHz のみ)	プリアンブルタイプを「Short」または「Long」から選択します。 (初期値：Short) 本製品と、接続する無線機器のプリアンブルタイプの設定を同じ「Short」に設定すると、通信速度が向上する場合があります。 接続する無線機器が「Short」に対応していない場合は、接続ができないことがあります。 接続する無線機器のプリアンブルタイプを同じ設定にしてください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>ガードインターバル</td><td>干渉を避けるための符号長の設定を次の中から選択します。
(初期値：Short GI)
<table><tr><td>Short GI</td><td>符号長の付加時間を短くし、「Long GI」を選択した場合より多くの情報を送信することができますが、符号間干渉が発生しやすくなります。</td></tr><tr><td>Long GI</td><td>符号長の付加時間を長くし、符号間干渉の発生を防ぎます。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>アグリゲーション</td><td>フレーム・アグリゲーションの方式を指定します。
「無効」「AMPDU」「AMSDU」「無効」に設定できます。
(初期値：AMPDU)</td></tr>
<tr><td>802.11g プロテクション</td><td>「有効」に設定すると、11b/g 規格が混在している通信環境で、11g 規格を優先します。(初期値：有効)</td></tr>
<tr><td>802.11n プロテクション</td><td>「有効」に設定すると、11a/b/g 規格が混在している通信環境で、11n 規格を優先します。(初期値：有効)</td></tr>
<tr><td>UAPSD</td><td>UAPSD の「有効」または「無効」を設定します。(初期値：有効)
UAPSD を「無効」に設定すると、接続クライアントの省電力化に貢献できる場合があります。</td></tr>
<tr><td>DTIM 期間</td><td>省電力に関する情報を本製品から無線機器に送信する間隔を 1 ～ 255 の範囲で設定します。(初期値：1)
間隔が大きいほど無線機器の省電力効果が増しますが、応答が遅くなります。ただし、無線機器の省電力の設定を有効にしていないと、この設定は無効です。</td></tr>
<tr><td>RTS 閾値</td><td>RTS 手順を行うときのサイズを 1 ～ 2347 の範囲で設定します。
(初期値：2347)
設定したサイズよりもフレームサイズが大きい場合、RTS を送信します。</td></tr>
<tr><td>フラグメント閾値</td><td>送信フレームの断片化を行うときのサイズを 256 ～ 2346 の範囲で設定します。(初期値：2346)
設定したサイズよりもフレームサイズが大きい場合、フレームを分割して送信します。</td></tr>
</table>

項目	内容
マルチキャストレート	マルチキャストパケットの通信速度を次の中から選択します。 (初期値：自動) 「自動」、「1 Mbps（2.4GHz のみ)」、「2 Mbps（2.4GHz のみ)」、「5.5 Mbps（2.4GHz のみ)」、「11 Mbps（2.4GHz のみ)」、「6 Mbps」、「9 Mbps」、「12 Mbps」、「18 Mbps」、「24 Mbps」、「36 Mbps」、「48 Mbps」、「54 Mbps」 「自動」を選択すると、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。
送信出力	本製品が無線で送信するときの電波の出力強度を次の中から選択します。(初期値：100%) 「100%」、「90%」、「75%」、「50%」、「25%」、「10%」 本製品の電波の届く範囲を調整することができます。
ビーコン間隔	ビーコンフレームの送信間隔を設定します。 ビーコンフレーム間隔を短くすると無線機器からの検出は早くなりますが、通信速度が低下する可能性があります。 通常は初期値で使用してください。 2.4GHz：40 ～ 1000ms　(初期値：100ms) 5GHz：100 ～ 1000ms　(初期値：100ms)
キープアライブ期間	本製品に無線機器を接続している場合、本製品が無線機器に接続されていることを確認する間隔を16～65535秒の範囲で設定します。(初期値：60 秒) 通常は初期値（60 秒）のまま使用してください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>平等通信機能</td><td>接続した端末間の通信時間（AirTime）を平等化して、端末ごとの通信のバラツキを改善する機能です。（初期値：自動）
<table>
<tr><td>自動</td><td>各 SSID が SSID 数で等分した通信時間を占有できます。
各 SSID に接続された端末は、SSID ごとの通信時間を同一 SSID 接続数で等分された通信時間を占有可能です。
例 1：SSID が 1 つだけ有効、端末が 5 台の場合
SSID が 1 つだけのため、SSID1 が 100% 通信時間を占有できます。
接続した端末はそれぞれ 20% ずつ通信時間を占有できます。
例 2：SSID が 4 つ有効、SSID1 と 2 に 2 台、SSID3 と 4 に 5 台の端末の場合
SSID1 ～ 4 はそれぞれ 25% の通信時間を占有できます。
SSID1 と 2 の端末は 12.5% ずつ、SSID3 と 4 の端末は 5% ずつ通信時間の占有が可能になります。</td></tr>
<tr><td>手動</td><td>各 SSID が利用できる通信時間を設定可能です。「SSID 占有率設定」ボタンをクリックすると、SSID ごとの占有率を指定できます。
SSID に接続された端末は、SSID ごとの占有率を同一 SSID 接続数で等分された通信時間を占有可能です。
複数の SSID を有効にする場合、必ず「SSID 占有率設定」を設定してください。</td></tr>
<tr><td>無効</td><td>平等通信機能を使用しません。端末により、通信時間の差が出ることで、通信のバラツキが発生する可能性が高くなります。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>マルチ→ユニキャスト変換</td><td>有効の場合、有線ポートからのマルチキャストパケットを、ユニキャストパケットに変換してクライアントに届けます。
マルチキャストパケットによる帯域不足が起きる場合、有効にすることで改善される場合があります。（初期値：無効）</td></tr>
<tr><td>スイッチアンテナ</td><td>使用するアンテナを選択します。（初期値：内部アンテナを使用）</td></tr>
</table>

■ セキュリティ



項目	内容
SSID	セキュリティを設定する SSID を選択します。(初期値 : SSID1) 「無線設定」−「2.4GHz」または「5GHz」の「基本設定」で設定した SSID のみ選択できます。
ブロードキャスト SSID	無線 LAN 上の無線機器から本製品を検索可能にする機能の「有効」または「無効」を設定します。(初期値 : 有効) **有効** : 無線機器を本製品に接続する場合、無線機器側で本製品を検索可能にします。ただし、無線機器側もブロードキャスト SSID を有効にする必要があります。 **無効** : 無線機器を本製品に接続する場合、無線機器側で本製品を検索しても見つからないようになります。無線機器側で本製品の SSID を直接入力する必要があります。
セパレーター機能	同一周波数帯に接続している無線機器間の通信制限を次の中から選択します。(初期値 : 無効) ● セパレーター機能は、無線機器間に対する通信制御機能です。 **無効** : 無線機器間への通信制御を行いません。 **STA セパレーター** : 現在の無線通信モードに接続しているすべての無線機器間の通信を禁止します。 **SSID セパレーター** : 同じ無線通信モードの同じ SSID に接続している無線機器間のみ通信を許可します。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>802.11k</td><td>本機能を有効にすると、802.11k に対応した無線機器が Wi-Fi ローミングをする際に、近隣のアクセスポイントの情報を検索しやすくし、無線機器の Wi-Fi ローミングを速やかに行うことができます。無線機器が 802.11k に対応している必要があります。（初期値：無効）</td></tr>
<tr><td>接続制限台数</td><td>各無線通信モードの最大同時接続台数を設定します。
設定範囲は 2.4GHz、5GHz ともに 1 ～ 128（合計 256）です。
（初期値：50）
● この設定は接続可能な最大数です。最大数を接続したときの通信状況は、接続無線機器の通信量や環境により影響されます。</td></tr>
<tr><td>認証方式</td><td>本製品へ接続された無線機器に使用する認証方式を設定します。
（初期値：認証なし）
各認証方式を設定するためには、接続する無線子機が各認証方式に対応している必要があります。設定の前に無線子機の対応規格をご確認のうえ認証方式を選択してください。
<table>
<tr><td>認証なし</td><td>認証方式を設定しません。
通常は「認証なし」に設定しないでください。悪用されたり、パソコンに不正アクセスされる場合があります。</td></tr>
<tr><td>Enhanced Open</td><td>Enhanced Open に対応した無線機器が通信できます。通信は AES で暗号化されます。</td></tr>
<tr><td>WEP</td><td>WEP にしか対応していない機器の場合、選択します。</td></tr>
<tr><td>IEEE802.1x/EAP</td><td>専用の RADIUS 認証サーバーを用意し、EAP 認証プロトコルを使用することで、無線子機がネットワークに接続するための認証手段を厳格に行うことができます。主にビジネスユースで利用されています。</td></tr>
<tr><td>WPA Personal</td><td>WPA Personal に準拠した無線機器との認証設定を行います。WPA タイプは以下から選択できます。
・「WPA3 Personal」・「WPA2/WPA3 Personal」
・「WPA2 Personal」・「WPA/WPA2 mixed」
（初期値：WPA2 Personal）</td></tr>
<tr><td>WPA Enterprise</td><td>WPA Enterprise に準拠した無線機器の認証を行います。EAP 認証プロトコルに対応した無線機器（サプリカント）および RADIUS サーバーが必要です。WPA タイプは以下から選択できます。
・「WPA3 Enterprise-192bit」・「WPA3 Enterprise」
・「WPA2/WPA3 Enterprise」・「WPA2 Enterprise」
・「WPA/WPA2 Enterprise」
（初期値：WPA2 Enterprise）</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>追加認証</td><td>無線機器接続時の追加認証の方式を次の中から選択します。
（初期値：追加認証なし）
68 ページ「MAC フィルター」で登録した MAC アドレスのクライアントのみを接続許可する場合は、本設定項目にて「MAC アドレスフィルター」または「MAC フィルター& MacRADIUS 認証」を選択してください。
<table>
<tr><td>追加認証なし</td><td>追加認証を設定しません。</td></tr>
<tr><td>MAC アドレスフィルター</td><td>接続を許可する無線機器の MAC アドレスを本製品へ登録しておき、該当する機器のみ接続を認証します。
MAC アドレスの登録については、68 ページ「MAC フィルター」を参照してください。
MEMO
「MAC アドレスフィルター」を有効にする場合は、「WPS」機能を無効にする必要があります。WPS を無効にする手順は 47 ページを参照してください。</td></tr>
<tr><td>MAC フィルター&MacRADIUS 認証</td><td>「MAC アドレスフィルター」と「MacRADIUS 認証」の両方の追加認証を行います。
MAC アドレスの登録については、68 ページ「MAC フィルター」を参照してください。</td></tr>
<tr><td>MacRADIUS 認証</td><td>MACRADIUS 認証に対応したサーバーを使用した認証です。
接続を許可する無線機器の MAC アドレスを RADIUS サーバーへ登録しておき、該当する機器のみ接続を認証します。
※ 本製品に搭載されている RADIUS サーバー機能は、Mac RADIUS 認証には対応しておりません。
Mac RADIUS 認証を使用する場合は、対応可能な RADIUS サーバーをご用意ください。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

●追加認証が「MACフィルター&MacRADIUS認証」または「MacRADIUS認証」の場合

項目	内容
MAC アドレスフィルターを使用	登録された MAC アドレスをパスワードとして使用します。
次のパスワードを使用	任意の値をパスワードとして使用します。使用可能な文字は「0 ～ 9」、「a ～ z」、「A ～ Z」で、1 ～ 128 文字以内です。

●認証方式が「Enhanced Open」の場合

項目	内容
Transition Mode	本機能を有効にすると、Enhanced Open に対応していない無線機器でも Enhanced Open に設定した SSID に接続可能になります。 （2020/11 月現在：本機能はファームウェアアップデートにて対応予定です）

●認証方式が「WEP」の場合

項目	内容
キーの長さ	暗号化キーの長さを「64 ビット」または「128 ビット」から選択します。 (初期値：64 ビット)
キータイプ	暗号化キーの書式を「ASCII（5 文字)」または「Hex（10 文字)」から選択します。 (初期値：64 ビット ASCII（5 文字）/ 128 ビット ASCII（13 文字))
デフォルトキー	使用する暗号化キーを選択します。(初期値：キー 1)
暗号化キー 1 ～ 4	「キータイプ」で選択した書式の暗号化キーを入力します。 (初期値：空欄)

●認証方式が「IEEE802.1x/EAP」の場合

項目	内容
キーの長さ	暗号化キーの長さを「64 ビット」または「128 ビット」から選択します。 (初期値：64 ビット)

●認証方式が「WPA Personal」の場合

項目	内容
WPA タイプ	WPA のタイプを選択します。 ご使用になる無線子機が対応している種別を選択します。 「WPA3 Personal」、「WPA/WPA2 mixed mode-PSK」、 「WPA2 Personal」、「WPA/WPA2 mixed」 (初期値：WPA2 Personal)
暗号化タイプ	暗号化タイプを表示します。 **AES（初期値）**：暗号化に強力なアルゴリズムを利用し、さらに安全性を高めた暗号通信方式です。この暗号化方式を利用する場合は、本製品と無線機器の両方で AES/CCM プロトコルに対応している必要があります。 **TKIP/AES mixed mode**：TKIP と AES の認証および通信を同時に行います。ブロードキャスト / マルチキャスト通信では、TKIP を使用します。WPA タイプに「WPA/WPA2 Personal」を選択している場合に設定できます。
キー更新間隔	Pre-shared キー（事前共有キー）の更新間隔を 0 ～ 9999 分の範囲で設定します。(初期値：60 分)

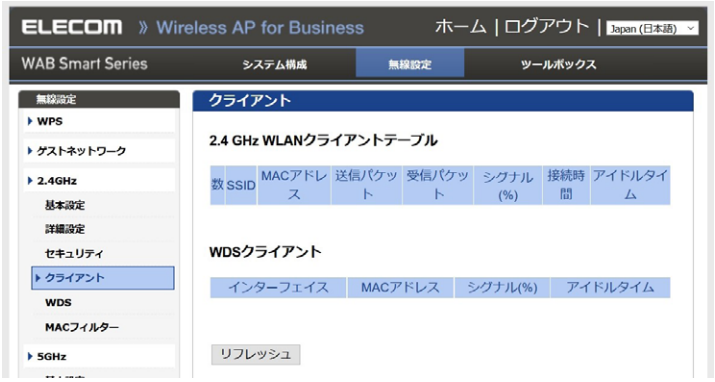
<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>Pre-shared キータイプ</td><td>Pre-shared キー（事前共有キー）の書式を「パスフレーズ」または「Hex（64 文字）」から選択します。（初期値：パスフレーズ）<table><tr><td>パスフレーズ</td><td>半角英数字 8 ～ 63 文字で入力します。</td></tr><tr><td>Hex（64 文字）</td><td>16 進数 64 桁で入力します。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>Pre-shared キー</td><td>［Pre-shared キータイプ］で選択した書式の Pre-shared キー（事前共有キー）を入力します。（初期値：空欄）</td></tr>
</table>

●認証方式が「WPA Enterprise」の場合

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>WPA タイプ</td><td>WPA のタイプを選択します。
ご使用になる無線子機が対応している種別を選択します。
「WPA3 Enterprise-192bit」、「WPA3 Enterprise」、
「WPA2/WPA3 Enterprise」、「WPA2 Enterprise」、
「WPA/WPA2 Enterprise」（初期値：WPA2 Enterprise）</td></tr>
<tr><td>暗号化タイプ</td><td>暗号化タイプを表示します。<table><tr><td>AES</td><td>暗号化に強力なアルゴリズムを利用し、さらに安全性を高めた暗号通信方式です。
この暗号化方式を利用する場合は、本製品と無線機器の両方で AES/CCM プロトコルに対応している必要があります。</td></tr><tr><td>TKIP/AES mixed mode</td><td>TKIP と AES の認証および通信を同時に行います。
ブロードキャスト / マルチキャスト通信では、TKIP を使用します。
WPA タイプに「WPA/WPA2 Enterprise」を選択している場合に設定できます。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>キー更新間隔</td><td>Pre-shared キー（事前共有キー）の更新間隔を 0 ～ 9999 分の範囲で設定します。（初期値：60 分）</td></tr>
</table>

■ クライアント

本製品と通信をしている無線機器の情報が表示されます。



●WLANクライアントテーブル

項目	内容
数	本製品と接続している無線機器の SSID 番号が表示されます。
SSID	無線機器が接続している SSID が表示されます。
MAC アドレス	本製品と接続している無線機器の SSSID が表示されます。
送信パケット	本製品と接続している無線機器に送信したデータ量 (KBytes) が表示されます。
受信パケット	本製品と接続している無線機器から受信したデータ量 (KBytes) が表示されます。
シグナル（%）	本製品と接続している無線機器の信号強度（%）が表示されます。
接続時間	本製品と接続している無線機器の連続接続時間が表示されます。
アイドルタイム	本製品と接続していた無線機器が切断されて（通信していない状態になって）から現在までの時間が表示されます。

●WDS クライアント

項目	内容
インターフェイス	WDS 接続設定の番号を表示します。
MAC アドレス	本製品と WDS 接続している無線機器の MAC アドレスを表示します。
シグナル (%)	本製品と WDS 接続している無線機器の信号強度（%）を表示します。
アイドルタイム	本製品と WDS 接続していた無線機器が通信していない状態になってから現在までの時間を表示します。

リフレッシュ	クリックすると表示内容が更新されます。

■ WDS

WDS 機能は、リピーター機能を使用し、2 台以上の無線親機同士が直接通信する機能です。無線通信のセキュリティを設定します。

●2.4GHz WDS、5GHz WDS

項目	内容
WDS 機能	WDS の設定を次の中から選択します。（初期値：無効） WDS で接続する機器側も WDS を設定してください。

無効	WDS 機能を使用しません。
WDS 通常モード	WDS を設定した無線親機同士で無線接続します。無線子機とも接続できます。ただし、無線子機の台数が多い場合、通信パフォーマンスが落ちる可能性があります。 このモードを選択すると、WDS 専用の SSID 領域を構築します。そのため有効 SSID 数の最大が 1 つ減り、SSID の最大数は 15 となります。WDS と災害モードを併用する場合は、最大 SSID 数は 14 となります。
WDS 有線専用モード	WDS を設定した無線親機同士を無線接続します。 無線子機は接続できず、有線のみでの接続になります。

ローカル MAC アドレス	本製品の MAC アドレスが表示されます。

●WDS設定

項目	内容
WDS #1 ～ #4	WDS で通信する無線親機の MAC アドレスを設定します。 (初期値：空欄)

●WDS VLAN

項目	内容
VLAN モード	WDS を使用した通信時に使用する VLAN の設定をします。 (初期値：タグなしポート) **タグなしポート**：WDS をタグなしのポートとして設定します。設定した VLAN ID のフレームのみがこのポートへ転送されます。 **タグ付きポート**：WDS をタグ付きのポートとして設定します。ポートで送受信するすべてのフレームに IEEE802.1Q 準拠の VLAN タグが付与されます。受信したフレームをすべて転送することができます。
VLAN ID	[VLAN モード] で「タグなしポート」を選択した場合に、WDS 機能を使用した通信時に使用する VLAN ID を 1 ～ 4094 の範囲で入力します。(初期値：1) 同じ VLAN ID が設定されている機器のみと通信をすることができます。

●暗号化方式

項目	内容
暗号化	WDS 機能を使用した通信時に用いる暗号プロトコルを次の中から選択します。(初期値：なし) **なし**：WDS 機能を使用した通信時に暗号化を用いません。暗号化なしで無線親機が WDS 機能による通信を行うと、通信経路上で通信内容が漏洩する可能性があります。「なし」を選択した状態で WDS 機能を使用しないでください。 **AES**：WDS 機能を使用した通信時の暗号化プロトコルに AES を使用します。AES を使用する場合は、WDS の接続元および接続先の無線親機に Pre-shared キー（事前共有キー）を設定する必要があります。
Pre-shared キー	Pre-shared キー（事前共有キー）を半角英数字 8 ～ 63 文字で入力します。(初期値：空欄) 「AES」を選択した場合のみ設定できます。

■ MACフィルター

登録したMACアドレスを持つ無線子機のみ通信を許可します。
第三者の無線子機からの不正アクセスを防止するのに役立ちます。
登録すると、登録されたMACアドレス以外の機器からのアクセスを拒否します。
2.4GHz用、5GHz用それぞれの登録テーブルが用意されています。

項目	内容
接続許可 MAC アドレス	接続を許可したい無線機器の MAC アドレスを登録します。 ● MAC アドレスは、「XX:XX:XX:XX:XX:XX」のように「:（半角コロン）」で英数文字 2 桁ずつを区切った書式で入力してください。 ● MAC アドレスを複数指定する場合は「,（カンマ）」または改行で区切って入力してください。 例） **カンマ区切り**：00:11:22:33:44:55,12:34:56:78:91:bc **改行区切り**：00:11:22:33:44:55 12:34:56:78:91:bc

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>MAC アドレスフィルタリングテーブル</td><td>
<table>
<tr><td>MAC アドレス</td><td>本製品に無線 LAN でアクセスすることを許可する無線子機の MAC アドレスが表示されます。</td></tr>
<tr><td>アクション</td><td>リスト上の MAC アドレスを削除するときは、チェックボックスをクリックして選択し、「選択を削除」ボタンをクリックしてください。</td></tr>
</table>
<table>
<tr><td>バックアップ</td><td>バックアップボタンをクリックすると、現在登録されている MAC アドレスのリストが保存できます。
ファイル形式：.txt</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

RADIUS

■ RADIUS設定

無線機器の認証などで使用するRADIUSサーバーを設定します。
2.4GHz帯と5GHz帯で各2台（プライマリ、セカンダリ）のRADIUSサーバーを登録できます。セカンダリのRADIUSサーバーは、プライマリのサーバーの障害時に自動的に切り替えて使用されます。
本製品が持つ簡易なRADIUSサーバーを利用いただくことも可能です。

● RADIUS サーバー（2.4G）、RADIUS サーバー（5G）

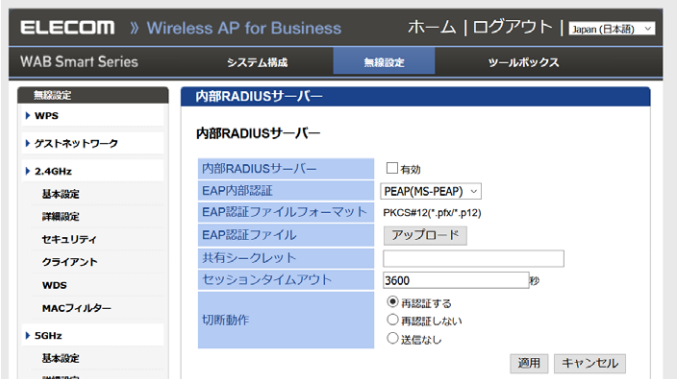
帯域およびプライマリ、セカンダリ共通の説明になります。

項目	内容
RADIUS タイプ	本製品が持つ簡易 RADIUS サーバーを使用する場合は、「内部」を選択してください。（初期値：外部）

項目	内容
RADIUS サーバー	認証に使用する RADIUS サーバーの IP アドレスを設定します。 （初期値：空欄）
認証ポート	RADIUS プロトコルが使用する UDP ポート番号を設定します。 （初期値：1812）
共有シークレット	本製品と RADIUS サーバー間の通信で使用する共有シークレットを半角英数字 1 ～ 99 文字の範囲で設定します。（初期値：空欄） 登録している共有シークレットが一致しなければ、RADIUS サーバーへの認証を得ることができません。
セッションタイムアウト	無線機器とのセッション時間の設定を 0 ～ 86400（秒）の範囲で設定します。 （初期値：3600 秒） 設定値が 0 の場合、セッションタイムアウトはありません。 RADIUS サーバー側のセッションタイムアウト設定が、本製品の設定よりも優先されます。

■ 内部RADIUSサーバー

本製品は、簡易用途として利用可能な RADIUS サーバーを搭載しています。



項目	内容
内部 RADIUS サーバー	本製品の内部 RADIUS サーバーを利用する場合は、チェックを付けます。 （初期値：チェックなし）
EAP 内部認証	ドロップダウンメニューから EAP 内部認証タイプを選択します。本製品では PEAP（MS-PESP）のみが利用可能です。（初期値：PEAP（MS-PESP））

項目	内容
EAP 認証ファイルフォーマット	EAP 証明書ファイル形式を表示します。PKCS#12(*.pfx/to.p12)
EAP 認証ファイル	[アップロード] をクリックして、新しいウィンドウを開き、使用する EAP 証明書ファイルの場所を選択します。証明書ファイルがアップロードされない場合、内部 RADIUS サーバーは自製の証明書を使用します。
共有シークレット	RADIUS サーバーと RADIUS クライアントの間で使用する共有シークレット / パスワードを入力します。共有シークレットは、1 ～ 32 文字の範囲で入力します。追加認証の MacRADIUS 認証を使用する場合、「セキュリティ」(→ 60 ページ) で記載している「MacRADIUS パスワード」の「次のパスワードを使用」で指定したパスワードと一致する必要があります。
セッションタイムアウト	セッションタイムアウトの期間を 0 ～ 86400 の範囲で設定します。 (単位 : 秒) (初期値 : 3600)
切断動作	[再認証する] は RADIUS 要求を送信します。 [再認証しない] は既定の終了アクション属性を送信します。 [送信なし] は終了アクション属性を送信しません。(初期値 : 再認証する)

重要

- **RADIUS サーバーの VLAN の設定値は、本製品の管理 VLAN と同じ値に設定する必要があります。**
- **本製品の RADIUS サーバー機能は、アカウンティング、および EAP 以外の認証方式に対応していません。**
- **本製品の RADIUS サーバー機能は、本製品の追加認証「MacRADIUS 認証」には対応していません。**

■ ユーザー認証

内部RADIUSサーバーは最大100ユーザーのアカウントを認証できます。
ユーザーの登録および管理ができます。

● ユーザー登録リスト 追加 / 編集

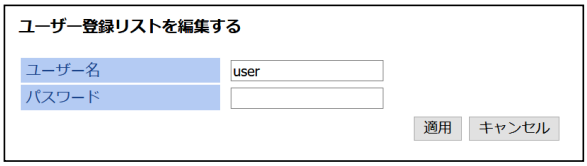
項目	内容
ユーザー名	ユーザー名を入力します。カンマで区切ると、複数のユーザーを一度に登録できます。
追加	[追加] をクリックすると、下部のユーザー登録リストにユーザーが登録されます。
リセット	ユーザー名ボックスからテキストをクリアします。

● ユーザー登録リスト

項目	内容
ユーザー名	登録されたユーザー名が表示されます。
パスワード	登録されたユーザー名にパスワードが設定されているか（設定済）、まだ設定していないか（未設定）を表示します。
編集	[編集] をクリックすると、パスワード設定の画面が開きます（下記）。 ユーザーのパスワードを設定 / 編集します。

項目	内容
選択を削除	ユーザー登録リストから「カスタマイズ」欄にあるチェックボックスにチェックを付けたユーザーを削除します。
すべてを削除	ユーザー登録リストからすべてのユーザーを削除します。

● ユーザー登録リストを編集する



項目	内容
ユーザー名	編集するユーザー名が表示されます。ユーザー名を変更する場合は新しいユーザー名を入力してください。(文字数：4 ～ 16 文字)
パスワード	指定されたユーザーのパスワードを入力または編集します。 (文字数：6 ～ 32 文字)

> ***MEMO***
> 登録されているパスワードは、確認することができません。パスワードがわからなくなった場合は、新しいパスワードを設定して、対象ユーザーに通知してください。

WMM

本製品と無線機器の間での通信で、特定の通信にのみ優先順位を設定します。
リアルタイム性が要求されるビデオや音声などの各種ストリーミングで、安定した通信を行うことができます。

> ***MEMO***
>
> 本製品のQoS機能を使用する場合は、ネットワーク内の他の機器も同一構成および設定のQoS機能を使用することを推奨します。

項目	内容
QoS 設定	QoS 機能の「有効」または「無効」を設定します。(初期値:有効) **無効**：本製品と無線機器の間での通信について、優先制御を行わず、入力順にすべてのフレームが処理されます。 **有効**：WMM-EDCA 設定を元に通信の制御を行います。QoS 機能を有効にするためには、本製品と無線機器の両方で QoS を有効に設定してください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>WMM-EDCA 設定</td><td>通常は変更する必要がありません。設定を変更する場合は、よくご理解の上変更してください。
● パラメーター
<table><tr><td>CWMin
CWMax</td><td>コンテンションウィンドウの最大値（CWMax）、最小値（CWMin）を設定します。
設定値は、CWMax > CWMin とします。
コンテンションウィンドウ値が小さいと、そのキューが送信権を得る確率が高くなり、優先度も高くなります。</td></tr><tr><td>AIFSN</td><td>フレーム送信間隔を設定します。
間隔が短いとキューの優先度が上がります。</td></tr><tr><td>TxOP</td><td>送信権を得たキューの転送占有時間です。長く設定すると、フレームの転送量は増えますが、リアルタイム性が損なわれます。単位は 32ms です。</td></tr></table>● WMM-EDCA項目
<table><tr><td>バックグラウンド</td><td>バックグラウンドの通信を設定します。</td></tr><tr><td>ベストエフォート</td><td>ベストエフォートの通信を設定します。</td></tr><tr><td>ビデオ</td><td>ビデオの通信を設定します。</td></tr><tr><td>ボイス</td><td>音楽の通信を設定します。</td></tr></table></td></tr>
</table>

アクセスポイントのWMMパラメータ（本製品）とWMMパラメータ（無線機器）の初期値は、次のとおりです。

WMMパラメータ（本製品）の初期値

	CWMin	CWMax	AIFSN	TxOP
バックグラウンド	4	10	7	0
ベストエフォート	4	6	3	0
ビデオ	3	4	1	94
ボイス	2	3	1	47

WMMパラメータ（無線機器）

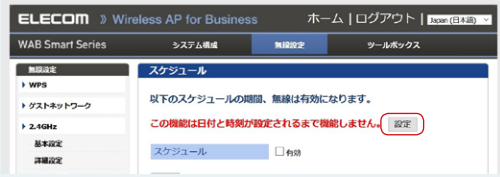
	CWMin	CWMax	AIFSN	TxOP
バックグラウンド	4	10	7	0
ベストエフォート	4	10	3	0
ビデオ	3	4	2	94
ボイス	2	3	2	47

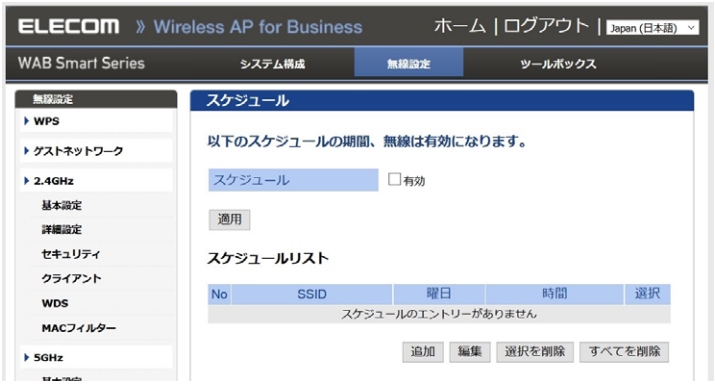
スケジュール

無線を有効にする曜日と時間帯を設定します。

MEMO

本製品に日付と時刻時間がセットされていないと以下の表示が出ますので、「設定」をクリックし、設定してください。(87 ページ参照)





項目	内容
スケジュール	「有効」にチェックを入れると、「スケジュールリスト」で設定したスケジュールが有効になります。

● **スケジュールリスト**

項目	内容
追加	スケジュールを追加します。 → 78 ページ
編集	選択したスケジュールを編集します。
選択を削除	選択したスケジュールを削除します。
すべてを削除	スケジュールをすべて削除します。

■ スケジュールの設定画面

スケジュールを有効にするSSIDを選択します。

無線を有効にする曜日を設定します。

無線を有効にする時間を設定します。

Link Integrity

Link Integrity機能を有効にすると、定期的にネットワークの接続確認を行い、切断を感知した場合にインターフェースごとに動作するアクションを設定することができます。

● Link Integrity セットアップ

項目	内容
Link Integrity	Link Integrity 機能を有効にする場合は、「使用する」にチェックを入れます。
確認先ホスト	ネットワークの接続確認に使用するホスト名、または IP アドレスを入力します。
確認間隔	何秒間隔で接続確認をするか設定します。
再確認回数	接続が確認できなかった場合に、再試行する回数を設定します。 指定した数の接続に失敗すると、「回線が切断されている」と判定します。

● 切断時の動作

インターフェースごとに切断が感知されたときの動作を設定します。

項目	内容	
アクション	**何もしない**	切断が感知されたとき、何も動作をしません。
	切断時ポートを無効にする	切断が感知されたとき、切断時のポートを無効にします。
	切断時のみポートを有効にする	切断が感知されたとき、切断時のみポートを有効にします。

ワイヤレスモニター

本製品の周囲に設置されている無線機器の使用状況が表示されます。
「2.4GHz」および「5GHz」の「基本設定」で「無線」を「有効」に設定している帯域のみワイヤレスモニターが動作します。

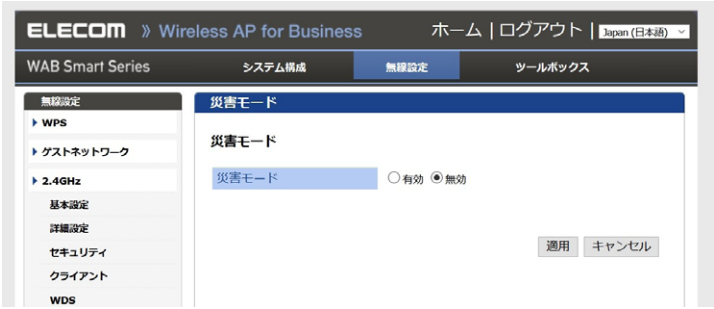
項目	内容
詳細設定	周囲に設置されている任意の無線アクセスポイントを手動で登録します。 登録済みのアクセスポイントはホワイトリストで表示されます。
無線 2.4GHz、 無線 5GHz	Ch：検出された無線機器のチャンネルが表示されます。 SSID：検出された無線機器の SSID が表示されます。 MAC アドレス：検出された無線機器の MAC アドレスが表示されます。 セキュリティ：検出された無線機器のセキュリティタイプが表示されます。 シグナル（%）：検出された無線機器の信号強度（%）が表示されます。 タイプ：検出された無線機器の無線通信モードが表示されます。
リフレッシュ	表示を最新の使用状況に更新します。

● 接続許可MACアドレス

周囲に設置されている任意の無線アクセスポイントを手動で登録します。
MACアドレスを登録した無線アクセスポイントは、正当な無線アクセスポイントとして認識され、「ワイヤレスモニター」の画面一覧ではホワイトリストとして表示されます。
MACアドレスの追加方法は、68ページ「MACフィルター」をご参照ください。

災害モード

本設定を実行すると、大規模災害が発生した際に、避難者がスマホやタブレットなどからスムーズに通信をすることができるようになり、安否確認の連絡や災害情報を知ることができます。
本製品の災害モードは『大規模災害発生時における公衆無線LANの無料解放に関するガイドライン』に準拠しています。
参照元サイト：無線LAN ビジネス推進連絡会「大規模災害時における公衆無線LAN の無料開放に関するガイドライン第2 版」
http://www.wlan-business.org/customer/introduction/feature/00000japan



項目	内容
災害モード	「有効」を選択し、「適用」をクリックすると、本製品が自動的に再起動します。再起動後は、災害モードになり、以下のSSID名でインターネットに接続できるようになります。（初期値：無効）

SSID	00000JAPAN
パスワード	なし
認証方式	なし

MEMO

災害モードの注意点について
災害モードを「有効」にすると、「00000JAPAN」専用のSSID領域を構築します。
そのため有効SSID数が1つ減ります。（最大16から15）
- 災害モードとWDS を併用する場合は、最大SSID数は14となります。
- SSIDを最大数設定している場合は、「災害モード」を有効にすると、最後のSSIDが使用できなくなります。「災害モード」を無効にすると、自動的に使用できる状態に戻ります。
- 「災害モード」有効時は、ゲストネットワーク機能は利用できません。

MEMO

「00000JAPAN」の通信制限について

災害用統一SSID「00000JAPAN」による接続は、http（80番ポート）／ https（443番ポート）の通信のみに制限されます。通信制限（http/https）による、別セグメントのサーバーやプリンターなどへのアクセスは制限されません。

管理者

本製品の設定画面にログインするためのアカウントや本製品の詳細設定について設定します。

項目	内容	
本製品を管理するアカウント	**管理者名**	設定画面のログイン時に使用するユーザー名です。 (初期値：admin) 変更する場合は、半角英数字および「-」で 4 ～ 16 文字の範囲で設定します。「-」はユーザー名の先頭または末尾に設定できません。空欄は設定できません。
	管理者パスワード	設定画面のログイン時に使用するパスワードです。 (初期値：[管理者情報シートに記載された製品固有の 8 ケタの英数字]) 変更する場合は、半角英数字および記号で 6 ～ 32 文字の範囲で設定します。空欄は設定できません。 「(確認)」にも同じパスワードを入力してください。 **重要** **セキュリティ確保のため、初期値からの変更をおすすめします。**

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>詳細設定</td><td>
<table>
<tr><td>製品名</td><td>本製品の本体名称です。
（初期値：「WAB」＋有線 LAN の MAC アドレス）
この名称が、転送ログ（syslog）などで使用されます。
変更する場合は、半角英数字および「-」で 1 ～ 32 文字の範囲で設定します。
「-」は製品名の先頭または末尾に設定できません。空欄は設定できません。</td></tr>
<tr><td>管理プロトコル</td><td>本製品の設定画面で使用する設定インターフェースの有効または無効を設定します。
使用する設定インターフェースをチェックします。
<table>
<tr><td>HTTP</td><td>Web ブラウザーから HTTP プロトコルを利用してアクセスできる設定インターフェースです。（初期値：有効）</td></tr>
<tr><td>HTTPS</td><td>Web ブラウザーから HTTPS プロトコルを利用してアクセスできる設定インターフェースです。（初期値：有効）</td></tr>
<tr><td>TELNET</td><td>TELNET ポートを開放し、コマンドで設定できるインターフェースを有効にします。
（初期値：無効）</td></tr>
<tr><td>SSH</td><td>SSH ポートを開放し、コマンドで設定できるインターフェースを有効にします。
（初期値：無効）</td></tr>
<tr><td>FTP</td><td>FTP プロトコルを利用して、設定ファイルを書き込める設定インターフェースです。
（初期値：無効）</td></tr>
<tr><td>TFTP</td><td>TFTP プロトコルを利用して、設定ファイルを書き込める設定インターフェースです。
（初期値：無効）</td></tr>
<tr><td>SNMP</td><td>SNMP プロトコルをサポートしたマネージャソフトからアクセスできる設定インターフェースです。（初期値：有効）
以降の設定項目は、この設定をチェックした場合のみ有効になります。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>SNMP
バージョン</td><td>SNMP プロトコルのバージョンを「v1/v2c」または「v3」から選択します。
（初期値：v1/v2c）
「v1/v2c」を選択した場合、MIB のアクセスにはコミュニティ（SNMP 取得コミュニティ、SNMP 設定コミュニティ、SNMP トラップコミュニティ）を使用します。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

項目	内容	
詳細設定	**SNMP 取得コミュニティ**	SNMP「GETRequest」コマンドのコミュニティ名です。 (初期値：public) 変更する場合は、半角英数字および記号で 6 ～ 32 文字の範囲で設定します。「SNMP バージョン」で「v1/v2c」を選択した場合のみ設定できます。
	SNMP 設定コミュニティ	SNMP「SETRequest」コマンドのコミュニティ名です。 (初期値：private) 変更する場合は、半角英数字および記号で 6 ～ 32 文字の範囲で設定します。「SNMP バージョン」で「v1/v2c」を選択した場合のみ設定できます。
	SNMP ユーザー名	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
	SNMP 認証タイプ	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、「MD5」「SHA」「認証しない」から選択します。
	SNMP 認証パスワード	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
	SNMP 暗号化タイプ	「SNMP バージョン」に「v3」を選択した場合、「AES128」「DES」「暗号化しない」から選択します。 「暗号化しない」を選択した場合は、「Pre-shared キー」の入力は不要です。
	Pre-shared キー	「SNMP バージョン」に「v3」を選択し、「SNMP 暗号化タイプ」に「AES128」または「DES」を選択した場合、入力します。 使用可能な文字は、英数字と記号、32 文字以内です。
	SNMP システムロケーション	SNMP「syslocation」コマンドの設定値です。 (初期値：Unknown) 変更する場合は、半角英数字および記号で 1 ～ 50 文字の範囲で設定します。
	SNMP トラップ	SNMP マネージャにネットワークエラーを通知するための SNMP トラップを有効または無効にします。(初期値：無効)
	SNMP トラップコミュニティ※	SNMP-TRAP 要求について SNMP マネージャと検証するための SNMP トラップコミュニティ名を入力します。
	SNMP トラップマネージャ※	SNMP マネージャの IP アドレスまたはサーバー名（2 ～ 128 文字の英数字）を指定します。
	※ SNMP トラップを有効にした場合、設定可能です。	

重要 **セキュリティ確保のため、SNMP の各コミュニティ名は初期値からの変更をおすすめします。**

日時

本製品の内部時計を設定します。日付と時刻、NTP サーバー、タイムゾーンを設定できます。

● 日付と時刻の設定

項目	内容
現在時刻	本製品の内部時計の日付と時刻を年月日は西暦、時刻は 24 時間制で設定します。設定できる範囲は、2005 年から 2037 年です。 例）2019 年 1 月 20 日 12 時 34 分 56 秒 「PC から現在時刻を取得する」をクリックすると、設定画面にアクセスしているパソコンの時刻を取得し、設定します。 ご使用のパソコンによっては、取得できない場合があります。

● NTP タイムサーバー

項目	内容
NTP を利用する	NTP 機能を使用する場合は「有効」をチェックします。（初期値：チェックなし）
サーバー名	使用する NTP サーバーのホスト名または IP アドレスを設定します。 （初期値：空欄） 半角英数字および「.」、「-」で 1 ～ 128 文字の範囲で設定します。 「.」、「-」はサーバー名の先頭または末尾に設定できません。 ホスト名を設定する場合は、DNS が設定されている必要があります。
更新間隔	NTP サーバーへの時刻確認の間隔を 1 ～ 24 時間（時間単位）の範囲で設定します。（初期値：24）

● タイムゾーン

項目	内容
タイムゾーン	本製品の内部時刻を設定します。 （初期値：(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京）

MEMO

NTP サーバーを正しく設定することによって、再起動または電源オン時に時計を自動的に調整することができます。

設定を保存 / 復元

本製品の現在の設定内容を保存したり、保存した設定ファイルを本製品に復元したりします。

重要

- **設定を復元すると、IP アドレスや無線の暗号化キーなどが設定ファイルを保存したときの設定に戻るため、本製品に接続できなくなる恐れがあります。**
- **設定ファイルの保存時と復元時の管理者パスワードが異なる場合、設定ファイルを復元すると管理者パスワードも復元されます。設定ファイルを保存したときの本製品の管理者パスワードを忘れないように注意してください。本製品の設定操作ができなくなります。**
- **復元を実行すると、復元の失敗または成功に関わらず日時が初期化されます。**

項目	内容
設定の復元	設定ファイルの保存または復元する場所を「PC 上のファイルから復元」または「USB デバイス上のファイルから復元」から選択します。 本製品の USB ポートに USB メモリーが挿入されていない場合は、「USB デバイス未接続」と表示されます。

ご注意

PoE パススルー機能を使用している場合、USB メモリーを同時にご利用いただけません。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>設定をバックアップ</td><td>
<table>
<tr><td>保存</td><td>クリックすると、本製品の現在の設定内容を設定ファイルとして PC 内に保存します。
設定ファイルには、本製品に設定された情報がすべて含まれます。
保存される設定ファイルは名前は次のとおりです。
「ELECOM-WBA+（MAC アドレス）.cfg」
すでに設定ファイルが存在する場合は、「ELECOM-WBA+（MAC アドレス）+(X).cfg」（X は数字。1 から 1 ずつ増加）となります。
例）ELECOM-WBA0090FE000006(1).cfg</td></tr>
<tr><td>パスワードを使用して設定ファイルを暗号化します。</td><td>チェックして「保存」をクリックすると、設定ファイルにパスワードを設定します。
パスワードは、半角英数字および記号で 1 ～ 32 文字の範囲で設定します。空欄は設定できません。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>設定を復元する</td><td>復元するファイルを選択します。
<table>
<tr><td>参照</td><td>クリックすると、アップロードするファイルの選択画面が表示されます。パソコンに保存している設定ファイルを選択し、「開く」をクリックしてください。</td></tr>
<tr><td>パスワードを使用してファイルを開きます。</td><td>復元する設定ファイルにパスワードを設定している場合は、チェックしてから「復元」をクリックし、保存時に設定したパスワードを入力します。</td></tr>
<tr><td>復元</td><td>設定ファイルを読み込み、設定内容の復元を開始します。</td></tr>
</table>
重要 次の設定ファイルは復元できません。
●保存した設定ファイルのファームウェアバージョンが現在の本製品のファームウェアバージョンよりも新しい場合
●設定ファイルが破損している場合
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>設定の自動保存</td><td>設定保存をした際、自動的に設定ファイルを USB メモリーに保存する機能です。
この機能を使用する場合は、USB ポートに USB メモリーを接続して、「有効」を選択してください。
※ FAT12/16/32 でフォーマットされた USB メモリーが利用可能です。
<table><tr><td>自動保存ファイル名：
（初期値：製品名の文字列）</td><td>入力された文字列を利用して、以下ルールでファイル名を自動生成します。
Auto"4 桁の数字 "-" 入力したファイル名 ".cfg
ファイル名が空白の場合は、" 管理者 " ページで設定できる " 製品名 " が利用されます。
例 1）ファイル名を指定しない場合
(製品名が "WABABCDEFABCDEF" の場合)
最初の設定保存時・・・
Auto0001-ELECOM-WABABCDEFABCDEF.cfg
2 回目の設定保存時・・・
Auto0002-ELECOM-WABABCDEFABCDEF.cfg
例 2）ファイル名に "abcdef " を入力した場合
最初の設定保存時・・・Auto0001-abcdef.cfg
2 回目の設定保存時・・・Auto0002-abcdef.cfg</td></tr><tr><td>自動保存件数：
（初期値：0）</td><td>指定した数量の設定ファイルを USB メモリー内に残します。
すでに USB メモリー内に指定数量の自動保存設定ファイルが存在する場合、一番古い番号のファイルを自動削除します。
例 1）自動保存数「3」の場合：
4 回目以降の設定ファイル作成時に一番古い番号のファイルを自動的に削除します。
例 2）自動保存数「1」の場合：
古いファイルを削除して新しい設定ファイルを作成します。
例 2）自動保存数「0」の場合：
USB メモリーの容量がいっぱいになるまで、新しい設定ファイルが作成されます。</td></tr></table></td></tr>
</table>

ご注意
PoE パススルー機能を使用している場合、USB メモリーを同時にご利用いただけません。

初期化

本製品の設定を初期化します。

項目	内容
初期化	本製品のすべての設定を工場出荷時の設定に戻します。

ファームウェア更新

■ ファームウェア更新

本製品のファームウェアをアップデートします。ファームウェアをアップデートすると、機能の追加や不具合の改善などが実行されます。

重要

- **ファームウェア更新中は、本体のLEDが点滅します。LEDの点滅中は絶対に本製品の電源を切らないでください。本製品の故障の原因になります。書き込みが終わると、自動的に本製品が再起動します。**
- **当社が提供するファームウェアのアップデートファイル以外は使用しないでください。**
- **ファームウェアのアップデートを実行すると、アップデートの失敗または成功に関わらず日時が初期化されます。**

項目	内容
ファームウェアデータ参照機器	ファームウェアのアップデートファイルの保存場所を「PC 上のファイル」または「USB デバイスのファイル」から選択します。 本製品の USB ポートに USB メモリが挿入されていない場合は、「USB デバイス未接続」と表示されます。 **ご注意** PoE パススルー機能を使用している場合、USB メモリーを同時にご利用いただけません。
ファームウェアのアップデートファイル	ファームウェアのアップデートファイルを選択します。 **参照**：アップロードするファイルの選択画面が表示されます。パソコンに保存しているアップデートファイルを選択し、「開く」をクリックしてください。 **アップデート**：ファームウェアのアップデートファイルを読み込み、ファームウェアの更新を開始します。 **重要** **次の場合は、ファームウェアのアップデート時にエラーになります。** ● **別機種の無線親機のアップデートファイルの場合** ● **アップデートファイルが破損している場合**

■ ファームウェア確認

本製品にはエレコム・ホームページ上に最新のファームウェアが公開されたかどうか、自動的に確認を行う「新ファームウェア確認通知」機能があります。
エレコム・ホームページ上に現在使用しているファームウェアのバージョンより新しいファームウェアがある場合、指定したアドレス宛に通知メールを送信します。
これにより、最新ファームウェアの適用検討を速やかに行えるようになります。

● 新ファームウェア確認通知

項目	内容
新ファームウェア確認	有効を選択すると、「新ファームウェア確認通知」機能が有効になります。 （初期値：無効）

● 確認時間

項目	内容
確認実施時間	最新ファームウェアの存在を確認する時間を選択します。（自動、または 00:00 ～ 23:30 の範囲で 30 分ごと） 自動の場合は、無作為に確認時間が設定されます。 （初期値：自動）

● 通知メール設定

項目	内容
宛先メールアドレス	新ファームウェアの通知メールを送付するメールアドレスを設定します。
テストメール送信	入力したメールサーバー設定を利用して、テストメールを送信します。 メールサーバー・アドレスの設定が正しいか確認することができます。「テストメール送信」ボタンをクリックしてもメールが届かない場合は、設定内容を確認してください。

● メールサーバー設定

項目	内容
送信元メール アカウント	告知メールを送信するための SMTP サーバーへアクセスするメールアカウントを設定します。
SMTP サーバー アドレス	メールを送信する SMTP サーバーのアドレスを設定します。
SMTP サーバー ポート	SMTP サーバーで使用する認証に合わせたポート番号を設定します。 25：SMTP　465：SSL　587：TLS
有効 認証	SMTP サーバーで認証が必要な場合、サーバーで使用する認証を「SSL」または「TLS」から選択します。 （初期値：無効）
アカウント	SMTP サーバーの認証で使用するアカウント名を設定します。
パスワード	SMTP サーバーの認証で使用するパスワードを設定します。

●送信回数制限

項目	内容
メール送信回数	告知メールを指定します。指定した回数のメール送信を行うと、それ以上送信を行わなくなります。「0」を指定した場合は、エレコム・ホームページに公開されているファームウェアを適用するまで、継続して通知メールを送信します。（初期値：1）
メール送信頻度	何日に 1 回、通知メールを送信するか、設定可能です。エレコム・ホームページに新しいファームウェアが公開されている状態の場合、「1」の場合は、毎日通知メールを送信します。「2」の場合は 1 日おき、「7」の場合は毎週 1 通の送信を行います。（初期値：1）

メールでファームウェアの通知設定を行う場合

ここでは、Gmailを利用した場合の手順を説明します。

1 Googleアカウント側のセキュリティ設定を確認します。

①Googleアカウントにログインします。

「https://myaccount.google.com」にアクセスし、Googleアカウントのアカウント情報画面を開きます。Googleアカウントにログインしていない場合はログイン画面が表示されます。ログインすると下図の画面が表示されます。

②「セキュリティ」メニューを選択します。

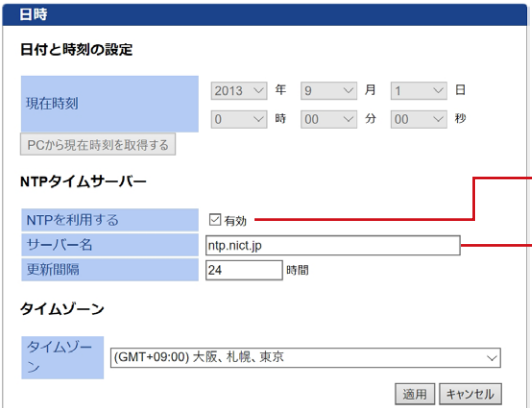
③「安全性の低いアプリのアクセス」の「アクセスを有効にする（非推奨）」をクリックし、表示された画面で有効に変更します。

> ***MEMO***
>
> 上記の手順は2020/9月現在のGoogleアカウント画面です。ご利用の時期によってはメニュー名、設定画面などは異なる場合がございます。その場合はGoogleアカウントのヘルプなどを参照して外部アプリからのアクセスを許可する設定を行ってください。

2 指定した時刻にメールを受信したい場合は、本製品自体の日時設定を行います。

ランダムな時間にメールを受信しても問題ない場合は、本手順は不要です。
以下は、NTP タイムサーバーを使用する場合の設定例です。

① [ツールボックス] – [日時] を選択して日時設定画面を開き、以下の設定を行います。



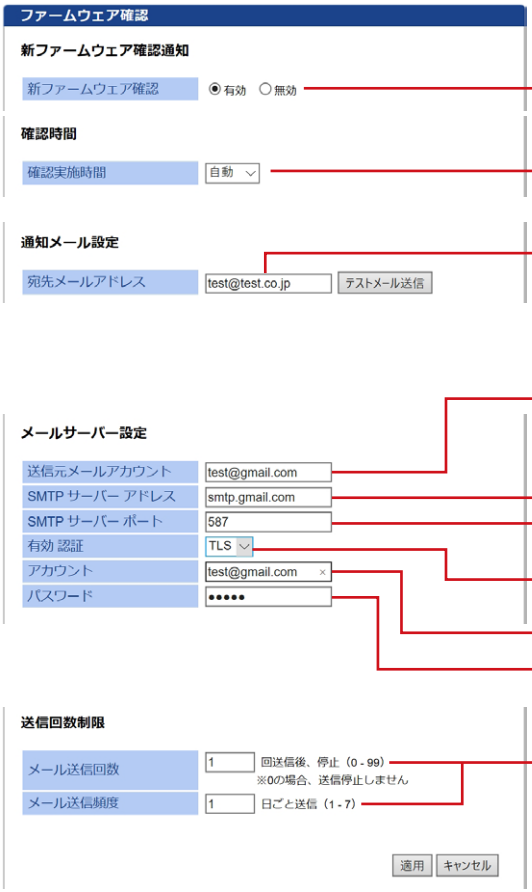
「有効」をチェック

利用する NTP タイムサーバーのアドレスを入力します。
例）ntp.nict.jp

② [適用] をクリックします。

3 本製品の新ファームウェア確認通知設定を行います。

① [ツールボックス] − [ファームウェア更新] − [ファームウェア確認] を選択してファームウェア確認画面を開き、以下の設定を行います。



「有効」を選択

94 ページを参照して、任意の時間または「自動」に設定

確認通知を受信するメールアドレスを入力
送信されるメールの「To」になります。

Gmail のメールアドレスを入力
送信されるメールの「From」になります。

「smtp.gmail.com」と入力

「587」と入力

「TLS」を選択

Gmail のメールアドレスを入力

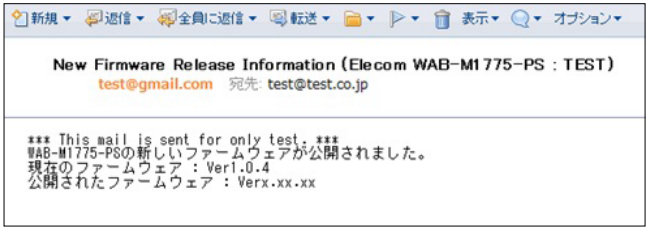
Gmail のパスワードを入力

95 ページを参照して、任意の値を設定

② [適用] をクリックします。

4 ファームウェア確認画面の［テストメール送信］ボタンをクリックして、テストメールを送信します。

宛先メールアドレスに設定したメールアドレスにテストメールが受信されているか確認してください。
ファーム確認通知メールの件名・本文は以下の画像を参照してください。



I'm here

設置場所を特定するために、本製品のブザーを鳴らします。

項目	内容
音の持続時間	ブザーを鳴らしたときの鳴動時間を 1 ～ 300 秒の範囲で設定します。 (初期値：10 秒) 「ブザーを鳴らす」をクリックすると、本製品のブザーが鳴り、STATUS ランプが赤く点滅します。[音の持続時間]で設定した鳴動時間が経過すると、ブザーが止まります。

節電

設定した曜日および時間に節電機能を作動させます。
節電機能動作中は、LEDランプや無線をオフにすることができます。

項目	内容
節電	有効に設定すると、「スケジュールテーブル」で指定した曜日および時間に節電機能が動作します。（初期値：無効）

● ユーザー設定

項目	内容	
ユーザー設定	LED 設定	チェックすると節電機能動作時に 2.4GHz、5GHz の LED ランプが消灯します。（初期値：チェックなし）
	無線 2.4GHz	チェックすると節電機能動作時に 2.4GHz 帯の無線を無効にします。（初期値：チェックあり）
	無線 5GHz	チェックすると節電機能動作時に 5GHz 帯の無線を無効にします。（初期値：チェックあり）
	ゲストネットワーク	チェックすると節電機能動作時にゲストネットワークを無効にします。（初期値：チェックあり）

● スケジュールテーブル

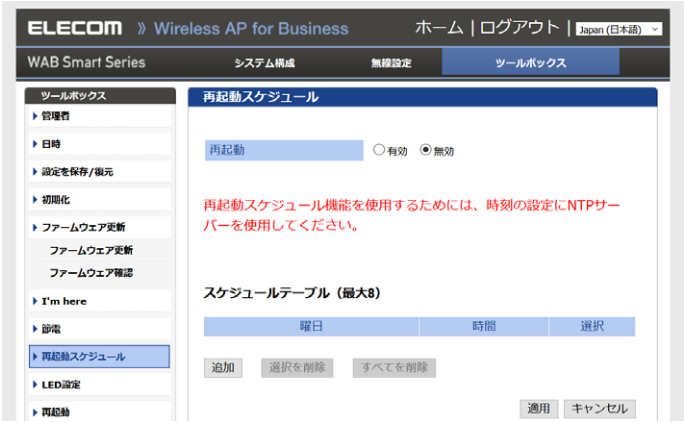
項目	内容
追加	「追加」をクリックすると、スケジュール設定画面が表示されます。 スケジュールは最大 8 件まで設定できます。 節電機能を動作させる曜日をチェックし、「開始時刻」と「終了時刻」を選択します。 設定後、「適用」をクリックすると、設定が追加されます。
選択を削除	選択しているスケジュールを削除します。
すべてを削除	すべてのスケジュールを削除します。

MEMO

適用後のスケジュールの変更が必要な場合は、保存した設定を削除して再度設定を行ってください。

再起動スケジュール

指定した曜日および時間に本製品を再起動させることができます。
本機能を使用する場合は、本製品の時刻設定をNTPタイムサーバーを使用する必要があります。設定は、「日時」の「NTPタイムサーバー」(→P.87)から行います。



項目	内容
再起動	「有効」に設定すると、「スケジュールテーブル」で指定した曜日および時間に再起動します。

● スケジュールテーブル

項目	内容
追加	「追加」をクリックすると、スケジュール設定画面が表示されます。 スケジュールは最大 8 件まで設定できます。 再起動させる曜日をチェックし、［再起動時間］を選択します。 ［適用］をクリックすると、再起動スケジュール画面に戻ります。
選択を削除	選択しているスケジュールを削除します。
すべてを削除	すべてのスケジュールを削除します。

MEMO 適用後のスケジュールの変更が必要な場合は、保存した設定を削除して再度設定を行ってください。

LED設定

本製品のLEDの点灯または消灯を設定します。

項目	内容
電源 LED	「オフ」に設定すると、各 LED ランプが消灯します。 (初期値：オン)
有線 LED	
2.4GHz LED	
5GHz LED	
USB LED	

MEMO

STATUS、PWR/PD LED は消灯設定の対象外です。

再起動

本製品を再起動します。

項目	内容
再起動	クリックすると、本製品を再起動します 再起動を実行すると、本製品の現在時刻設定が、工場出荷時の値または日時設定（→ 87 ページ）で設定した時刻に戻ります。

> ***MEMO***
>
> 本製品を再起動すると、ログ記録がクリアになります。
> ログを保存したい場合は「Syslog サーバー」（→ P.46）設定を行ってください。

こんなときは

ゲストネットワークを設定する **107**

Eメール認証する場合 110

E-MAIL認証設定時のユーザーの認証方法 111

ログインID／パスワードを変更する **112**

インターネットにつながらない **113**

無線LANがつながらない **114**

端末からWPSで本製品に接続できない **115**

WPSを使っても接続できない 115

PINコードで接続できない 115

ファームウェアを更新する **116**

登録した無線子機のみアクセスを許可する **118**

初期化する **121**

ゲストネットワークを設定する

ゲストユーザーが本製品を経由して、一時的にインターネットにのみアクセスできるゲストネットワークを設定します。
通常使用しているネットワークとは分離したネットワークを提供しますので、安心してお使いいただけます。

1 本製品の設定画面を開き、「無線設定」－「ゲストネットワーク」をクリックします。

2 「ゲストネットワーク」を「有効」に設定し、各項目を設定したあと、「適用」をクリックします。

- 各設定項目については、49ページ「ゲストネットワーク」を参照してください。
- Eメール認証でゲストネットワークを設定する場合は、110ページを参照してください。

MEMO

ゲストネットワークには、以下の制限が適用されます。

- ゲストネットワークによる接続は、http（80番ポート）／ https（443番ポート）など、ホームページ閲覧・メール送受信に関するポートのみに制限されます。（設定変更で制限なく利用も可能です。）
- 通信制限による、別セグメントのサーバーやプリンターなどへのアクセスは制限されません。

MEMO

接続制限時間設定の注意点について

接続制限時間は、ゲスト接続可能時間と組み合わせて設定することで、ゲストネットワークへの接続制限を調整することができます。

〈例1〉 お客様が1日（24時間）に最大3回、1回あたり3時間のゲストネットワーク接続を許可する場合は、以下のように設定します。

ゲスト接続可能時間	3時間
接続制限時間	24時間
接続可能回数	3回

接続から3時間が経過すると、再度認証が必要になります。3回目の認証から3時間経過後は、翌日の最初の認証時間までの時間は利用できなくなります。

〈例2〉 お客様が営業時間（12時間）に最大2時間のゲストネットワーク接続を1回だけ許可する場合の設定は以下となります。

ゲスト接続可能時間	2時間
接続制限時間	12時間
接続可能回数	1回

接続してから2時間が経過すると、それ以上の接続はできなくなります。10時間（接続制限時間：12時間 - ゲスト接続可能時間：2時間）経過すると、再度ゲストネットワーク利用が可能になります。

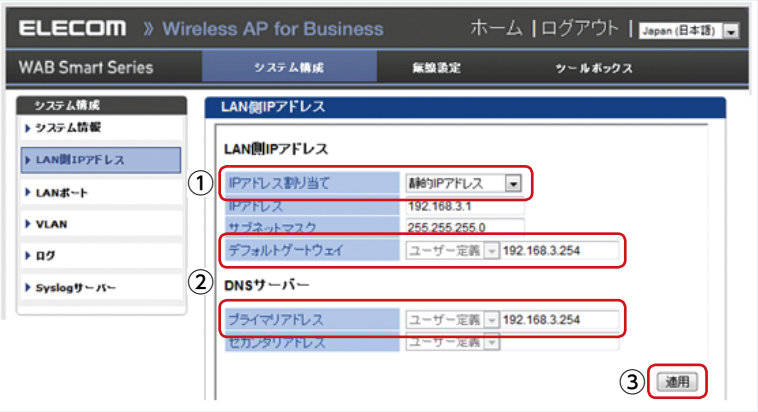
MEMO

LAN側IPアドレスを静的IPアドレスでゲストネットワークを使用する場合、「デフォルトゲートウェイ」、「プライマリアドレス」の設定が必要になります。

① [システム構成]の[LAN側IPアドレス]から[IPアドレス割り当て]のリスト内の[静的IPアドレス]を選択します。

② [デフォルトゲートウェイ]と[プライマリアドレス]を入力します。

③ [適用]を選択し、設定を反映する。

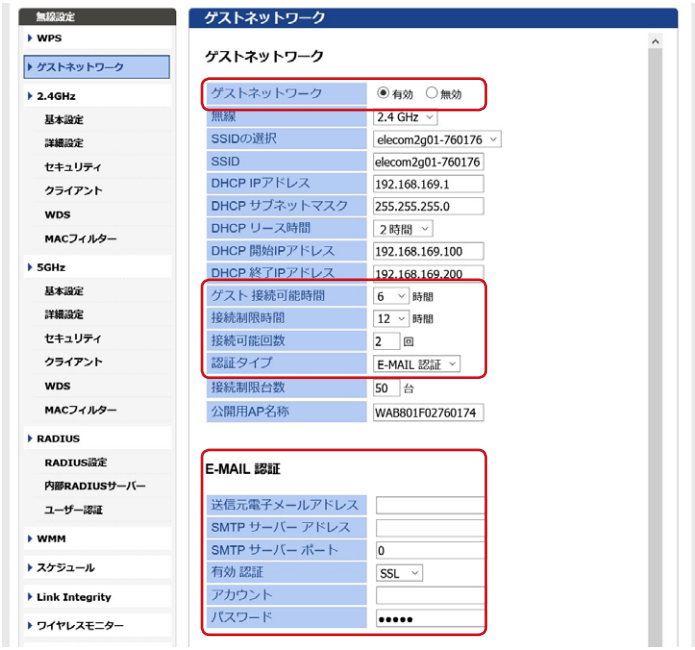


※ 必要に応じて[セカンダリアドレス]を設定します。上記デフォルトゲートウェイとプライマリアドレスの値は設定の一例です。

Eメール認証する場合

Eメールに記載されたIDとパスワードでログインしたユーザーのみネットワークへの接続を許可します。

ゲストネットワーク設定で以下の設定を行い、「適用」をクリックします。



● ゲストネットワーク

項目	設定内容
ゲストネットワーク	有効
ゲスト接続可能時間	任意の値
接続制限回数	
接続制限時間	
認証タイプ	E-MAIL 認証

● E-MAIL認証

項目	設定内容
送信元電子メールアドレス	IDとパスワードを送付するメールアドレスを設定します。

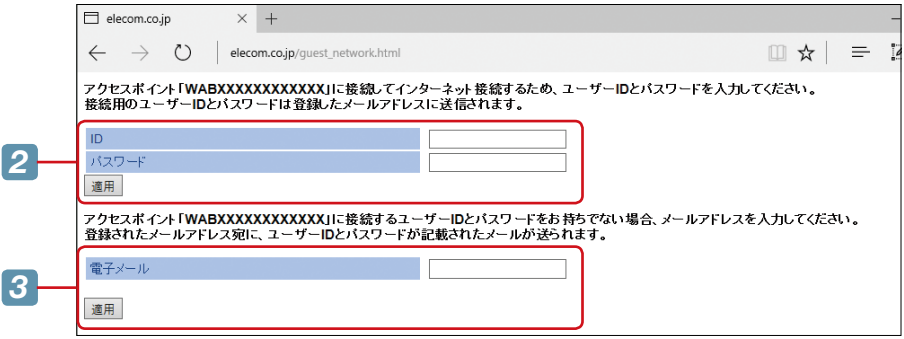
項目	設定内容
SMTP サーバーアドレス	メールを送信する SMTP サーバーのアドレスを設定します。
SMTP サーバーポート	SMTP サーバーで使用する認証に合わせたポート番号を設定します。(465：SSL、587：TLS)
有効認証	SMTP サーバーで使用する認証を「SSL」または「TLS」から選択します。
アカウント	SMTP サーバーを使用するためのアカウント名とパスワードを入力します。
パスワード	

■E-MAIL 認証設定時のユーザーの認証方法

ゲストネットワークの「認証タイプ」に「E-MAIL 認証」を選択した場合は、以下の方法でゲストネットワークに接続します。

1 ゲストネットワークで設定したSSIDに接続し、ブラウザーを開きます。

以下の画面にリダイレクトされます。



2 「電子メール」にメールアドレスを入力し、「適用」をクリックします。

IDとパスワードが入力したメールアドレス宛に送信されます。

3 「ID」と「パスワード」を入力し、「適用」をクリックします。

認証が成功すると、インターネットへのアクセスができるようになります。

ログインID／パスワードを変更する

重要 **セキュリティ確保のため、「管理者パスワード」は初期値からの変更をおすすめします。**

1 本製品の設定画面を開き、「ツールボックス」－「管理者」をクリックします。

2 「管理者名」および「管理者パスワード」を変更し、「適用」をクリックします。

管理者名	設定画面のログイン時に使用するユーザー名です。（初期値：admin） 変更する場合は、半角英数字および「-」で 4 ～ 16 文字の範囲で設定します。 「-」はユーザー名の先頭または末尾に設定できません。 空欄は設定できません。
管理者パスワード	設定画面のログイン時に使用するパスワードです。（初期値：[管理者情報シートに記載された製品固有の 8 ケタ英数字]） 変更する場合は、半角英数字および記号で 6 ～ 32 文字の範囲で設定します。 空欄は設定できません。 「（確認）」にも同じパスワードを入力してください。

3 本製品が再起動され、設定が反映されます。

インターネットにつながらない

以下のことを試してください。

① **本製品を再起動する。**
本製品からACプラグ（PoE給電の場合はPD(IN)のLANケーブル）をいったん抜いた後、再度差し直します。

② **本製品を初期化/再設定する。**
本製品のリセットボタンを先の細いもので押し続けます（付属「クイックセットアップガイド」を参照）。
初期化後は、付属のクイックセットアップガイドを参照して再設定を行ってください。
また、必要に応じて初期化する前に設定を保存してください（→89ページ）。

無線LANがつながらない

① 本製品のセキュリティ設定やMACフィルター設定は正しいですか?

セキュリティ設定は、無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定にする必要があります。また、MACフィルターを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

(→MACフィルター設定 68ページ)

② Wi-Fiのセキュリティ機能を設定後に無線LANがつながらない。

- セキュリティ設定は、同じ無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定になっている必要があります。設定が少しでも異なる機器はネットワークに接続することができません。
- 各セキュリティ機能で使用するパスワードや暗号などの文字列は大文字と小文字が区別されたりします。また、意味のない文字列は入力ミスが発生しやすいので特に注意して確認してください。
  セキュリティ設定でのトラブルのほとんどがスペルミスや設定ミスですのでよく確認してください。
- 設定を変更した直後や設定が正しい場合は、アクセスポイントを含め、すべての機器の電源を入れ直してから接続してみてください。

端末からWPSで本製品に接続できない

WPSを使っても接続できない

WPSを使って無線LAN接続するときは、無線LAN子機がWPSに対応している必要があります。
無線LAN子機がWPSに対応していない場合は、SSIDとセキュリティキーを使用して接続してください。

PINコードで接続できない

入力したPINコードが誤っていることがあります。再度PINコードを確認して接続してください。

繰り返し接続に失敗するようであれば、SSIDとセキュリティキーを使用して接続してください。

ファームウェアを更新する

機能の充実や改良により、本製品のファームウェアをバージョンアップすることがあります。
ファームウェアを更新（アップデート）することで、本製品を最新の状態にすることができますので、新しい機能を追加したり、操作を改善することができます。

1 エレコム Web サイトからファームウェアをダウンロードします。

① 管理用パソコンでWebブラウザーを起動し、エレコムWebサイト「https://www.elecom.co.jp/」に接続します。

② エレコムWebサイトのメニューから「ダウンロード」ー「ドライバ・ユーティリティ」を選択します。

③「型番で検索」で型番（WAB-M1775-PS）を入力し、検索します。

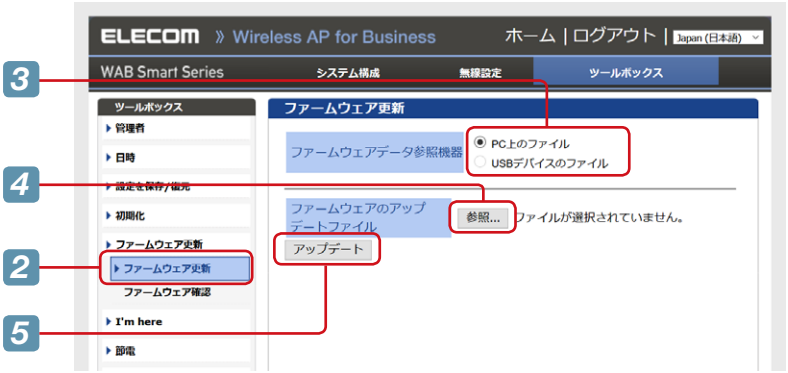
④ 本製品向けにダウンロードが可能な内容が表示されますので、「WAB-M1775-PS用ファームウェア」をクリックします。

⑤ 画面の説明に従ってダウンロードを開始します。

- ダウンロード前に注意事項などがないか、ダウンロードページでご確認ください。
- ダウンロードファイルの保存場所には、デスクトップを指定してください。

⑥ ダウンロードしたファイルを管理用パソコンまたはUSBデバイスに保存します。

2 **本製品の設定画面に入り、「ツールボックス」－「ファームウェア更新」をクリックします。**



3 **「ファームウェアデータ参照機器」でファームウェアが保存されている場所を選択します。**

4 **「ファームウェアのアップデートファイル」－「参照」をクリックし、1 でダウンロードしたファイルを選択します。**

5 **「アップデート」をクリックします。**
ファームウェアの更新が開始されるので、しばらく待ちます。

> **重要** **ファームウェア更新中は、本体のLEDが点滅します。**
> **LEDの点滅中は絶対に本製品の電源を切らないでください。**
> **故障の原因になります。**
> **書き込みが終わると、自動的に本製品が再起動します。**

更新が完了すると、「アップデートが完了しました。」と表示され、新しいファームウェアで動作します。

「システム情報」画面の「バージョン」の数値が最新のバージョンであれば更新されています。

登録した無線子機のみアクセスを許可する

アクセスしたい無線子機のMACアドレスをMACアドレスフィルタリングテーブルに登録すると、登録していない機器からのアクセスを拒否することができます。
2.4GHz用、5GHz用それぞれの登録テーブルが用意されています。

1 設定画面を表示し、「無線設定」ー(2.4GHz または 5GHz の)「MACフィルター」をクリックします。

2 「接続許可 MAC アドレス」欄に登録したい無線子機の MAC アドレスを入力します。

- MACアドレスは、「XX:XX:XX:XX:XX:XX」のように「:(半角コロン)」で英数文字2桁ずつを区切った書式で入力してください。
  「XX-XX-XX-XX-XX-XX」、「XXXXXXXXXXXX」のような、「- (ハイフン)」区切りや、区切り文字なしの書式では入力ができません。
- MACアドレスを複数指定する場合は「, (カンマ)」または改行で区切って入力してください。

例)

カンマ区切り	00:11:22:33:44:55,12:34:56:78:91:bc
改行区切り	00:11:22:33:44:55 12:34:56:78:91:bc

3 **「追加」をクリックします。**

本製品が再起動されます。

4 **「MACアドレスフィルタリングテーブル」に 2 で入力したMACアドレスが追加されていることを確認します。**

テーブルに追加されたMACアドレス以外の機器からのアクセスは拒否されます。

5 「無線設定」ー(2.4GHzまたは5GHzの)「セキュリティ」をクリックし、「追加認証」を「MACアドレスフィルター」に設定します。

> **MEMO**
>
> 「MACアドレスフィルター」を有効にする場合は、「WPS」機能を無効にする必要があります。WPSを無効にする手順は47ページを参照してください。

初期化する

設定を初期化して、工場出荷時の状態に戻します。

重要 **初期化した場合は、お客様にて設定された内容は消去されます。初期化後は再設定を行ってください。**
事前に本製品の管理画面「ツールボックス」－「設定を保存/復元」から現在の設定内容を保存できます。
初期化後は同じ画面から設定を復元することができます。
(→89ページ)

1 設定画面を表示し、「ツールボックス」－「初期化」をクリックします。

2 「初期化」をクリックします。

3 確認画面が表示されますので、「OK」をクリックします。

初期化されるまでに少し時間がかかります。本製品の電源を切らないでください。
「このページを表示できません」※などの画面が表示されたら、初期化完了です。

※ お使いのブラウザーにより表示は異なります。

付録編

安全上のご注意 **123**

使用上のご注意 **126**

このマニュアルについて **127**

無線LANをご使用になるにあたってのご注意 **128**

動作環境 **129**

各部の名称とはたらき **130**

パソコンのIPアドレスの確認方法 **133**

Windows 10の場合 134

製品の保証について **136**

製品の保証とサービス 136

サポートサービスについて **137**

基本仕様 **138**

設定ユーティリティの工場出荷時の設定値 138

有線LANの工場出荷時設定値（初期値） 138

無線LANの工場出荷時設定値（初期値） 139

安全上のご注意

製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。

本製品は、人命にかかわる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係）への組み込みは考慮されていません。これらの機器での使用により、人身事故や財産損害が発生しても、弊社はいかなる責任も負いかねます。

■表示について

この「安全上のご注意」では以下のような表示（マークなど）を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠ 警告	**この表示を無視して取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。**
⚠ 注意	**この表示を無視して取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。**

	丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されている場合があります。
	塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行なわなければならないことを意味します。丸の中は行なわなければならない行為が絵などで表示されている場合があります。

⚠ 警告

万一、異常が発生したとき。

本体から異臭や煙が出た時は、ただちに電源を切り、販売店にご相談ください。

異物を入れないでください。

本体内部に金属類を差し込まないでください。また、水などの液体が入らないように注意してください。故障、感電、火災の原因となります。

※万一異物が入った場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。

落雷の恐れがあるときや雷発生時は、いったん電源を切って使用を中断してください。

感電、火災、故障の原因となります。

水気の多い場所での使用、濡れた手での取り扱いはおやめください。

感電・火災の原因となります。

ケースカバーは取り外したり分解しないでください。

ケースやカバーは絶対に取り外したり、分解したりしないでください。作業時の思わぬ接触など不具合発生時や使用中に、感電及び故障や劣化による火災の原因となる危険があります。分解の必要が生じた場合は、販売店にご相談ください。

付属または弊社が指定する仕様・型番のACアダプター、電源ケーブルや信号ケーブル以外を本製品に使わないでください。

仕様が合わないACアダプター・ケーブル等を接続すると、本製品が故障・発煙・発火する恐れがあります。

装置の上に物を置かないでください。

本製品の上に重いものや、水の入った容器類、または虫ピン、クリップなどの小さな金属類を置かないでください。故障や感電、火災の原因になります。

揮発性液体の近くの使用は避けてください。

マニキュア、ペディキュアや除光液などの揮発性液体は、装置の近くで使わないでください。装置の中に入って引火すると火災の原因になります。

同梱の部品は、本製品でのみご使用ください。

製品に同梱されているACアダプター、あるいは電源コードは、他の電子機器では使用しないでください。仕様の違いにより、火災・故障の原因となります。

⚠ 注意

通風孔はふさがないでください。
過熱による火災、故障の原因となります。

高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。
屋外での使用は禁止します。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。

本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用／保管は避けてください。
故障や、接触不良による発火や火災の原因となります。

ラジオ・テレビ等の近くで使用しますと、ノイズを与える事があります。また、近くにモーター等の強い磁界を発生する装置がありますとノイズが入り、誤動作する場合があります。必ず離してご使用ください。

電源が入っている状態で本体に長時間（10 秒以上）触れないでください。
低温やけどの原因となるおそれがあります。

地震・振動・落下対策について。
地震などによる振動で装置の落下、移動、転倒あるいは窓からの飛び出しが発生し、重大な事故へと発展するおそれがあります。これを防ぐため、必要に応じて保守会社や専門業者にご相談頂くなど、地震・振動・落下対策を実施してください。

使用上のご注意

- 高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。
- 屋外で使用しないでください。
- 周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。
- 本体は精密な電子機器のため、衝撃や震動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用・保管は避けてください。
- ラジオ・テレビ等の近くで使用すると、ノイズを与えることがあります。また、近くにモーター等の強い磁界を発生する装置があると、ノイズが入り、誤動作する場合があります。必ず離してご使用ください。
- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告無しに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバー、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTP サイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。

このマニュアルについて

- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製／転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社サポート窓口までご連絡ください。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名／社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®およびTMは省略させていただきました。

無線LANをご使用になるにあたってのご注意

■2.4GHz帯使用の無線機器について

本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の調理器具・産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数帯域	2.4GHz
変調方式	DS-SS方式/OFDM方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」、「特定小電力無線局」帯域を回避可能

■5GHz帯使用の無線機器について

電波法により、W52、W53は屋外での使用が禁止されています。
36 ～ 64chは、屋外で使用しないでください。

動作環境

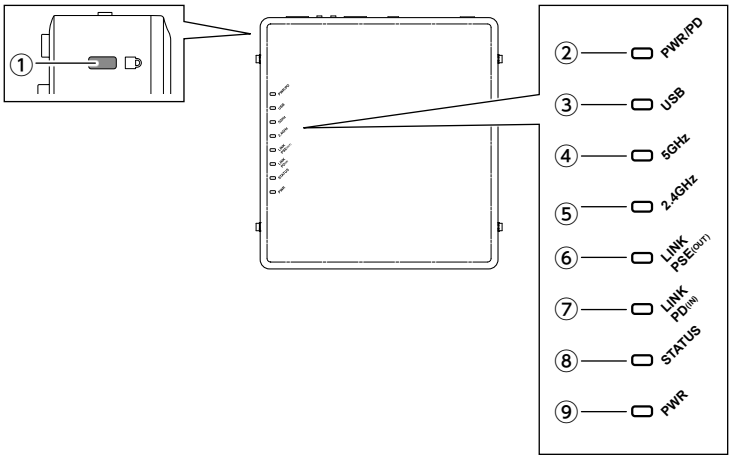
クライアントOSとして、次の環境のみサポートしています。
また、Webベースの管理画面(設定ユーティリティ)を採用しています。
本製品の設定には以下のWebブラウザーより設定ができます。

対応 OS	**Windows**	Windows 10/8.1
	mac	macOS Catalina 10.15/macOS Mojave 10.14/ macOS High Sierra 10.13
	その他	iOS 12.4 ～ 14.0、Android 8.0 ～ 10.0
対応ブラウザー (Web UI 設定時)		Edge、Internet Explorer、Chrome、Safari

各部の名称とはたらき

本体

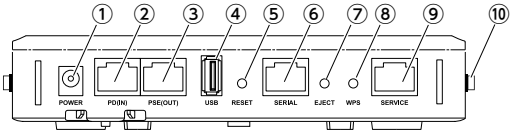
■ 正面



① **盗難防止機構**	盗難防止用ワイヤーの取付穴です。	
② PWR/PD	**点灯(緑)**	PoE 給電により電源が投入されています。
	点滅(緑)	PoE 電力が不足しています。
③ USB	**点灯(緑)**	USB メモリー接続中です。
	点滅(緑)	データ通信中です。
④ 5GHz	**点灯(緑)**	5GHz 帯無線 LAN 機能を使用中です。
	点滅(緑)	データ通信中です。
⑤ 2.4GHz	**点灯(緑)**	2.4GHz 帯無線 LAN 機能を使用中です。
	点滅(緑)	データ通信中です。
⑥ LINK PSE (OUT)	**点灯(緑)**	下位の LAN へ接続しています。
	点滅(緑)	データ通信中です。
⑦ LINK PD (IN)	**点灯(緑)**	上位の LAN へ接続しています。
	点滅(緑)	データ通信中です。

⑧ STATUS	**点灯(緑)**	正常です。
	点灯(赤)	エラーが発生しています。
	点滅(赤)	1) 本製品の起動中です。 2) ファームウェアのアップデート中です。 3) 工場出荷時状態に初期化中です。 4) I'm here 機能を使用した時です。 5) USB メモリーのログ保存領域がいっぱいです。
⑨ PWR	**点灯(緑)**	本製品の電源が入った状態です。

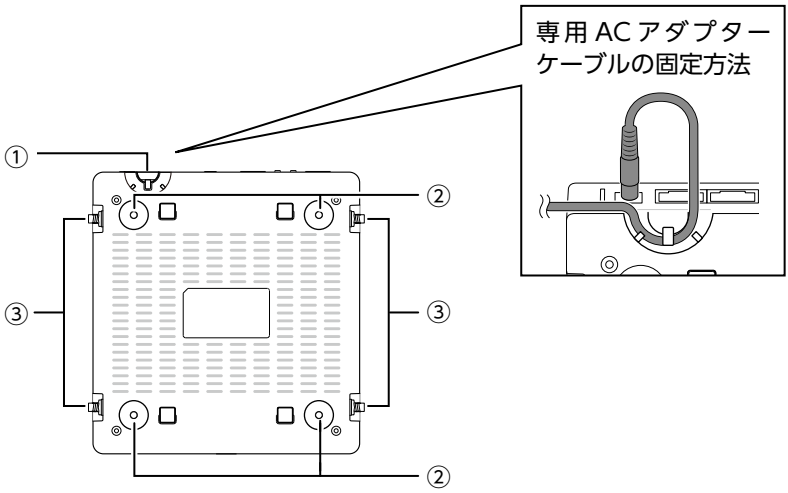
■ 天面



① **DC ジャック**	専用 AC アダプター（WAB-EX-AC12（別売））を接続します。※1
② **PD(IN)Ether ポート**	上位の回線を接続します。
③ **PSE(OUT)Ether ポート**	下位の回線を接続します。
④ **USB ポート**	USB メモリーを接続します。※2
⑤ **リセットボタン**	1 ～ 9 秒長押しで再起動、10 秒長押しで初期化を実行します。
⑥ **コンソールポート**	コマンドラインからの設定用です。※3
⑦ **USB イジェクトボタン**	USB メモリーをイジェクトします。(3 秒長押し)
⑧ **WPS ボタン**	WPS を使用して無線 LAN 接続をします。(1 秒長押し)
⑨ **メンテナンスポート**	保守用です。使用しません。※4
⑩ **アンテナ端子**	別売の専用アンテナを取り付けます。法律に抵触する可能性があるため専用アンテナ以外は接続しないでください。

※ 1 PoE 給電機器を使用する場合は、専用 AC アダプターは不要です。IEEE802.3at または IEEE802.3af に対応する給電機器をご利用ください。
※ 2 PoE パススルー機能と同時にご利用いただけません。
※ 3 専用ケーブル以外は接続しないでください。ご使用になるときはシールを剥がしてご利用ください。
※ 4 シールを剥がさないでください。LAN ケーブルを接続しないでください。

背面

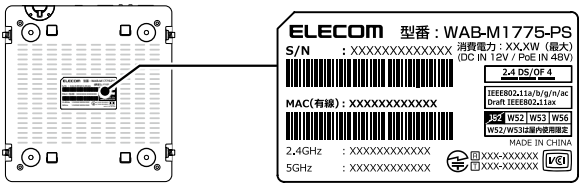


① AC ケーブル固定ガイド	別売の専用 AC アダプター(WAB-EX-AC12) を使用する場合、ケーブルが抜けないよう、フックに引っかけて配線します。
② マグネット取付位置	本製品をマグネットで設置する場合、付属のマグネットを取り付けます。
③ 外部アンテナ取付位置	別売の外部アンテナ (WAB-EX-ANT1) を使用する場合に取り付けます。内部アンテナを使用する場合、付属の保護キャップをつけたまま設置してください。外部アンテナの詳細についてはユーザーズマニュアルをご参照ください。

シリアル番号、MAC アドレスについて

本体背面に貼り付けられたデバイスラベルで確認できます。

デバイスラベル<見本>



パソコンのIPアドレスの確認方法

本製品の管理画面にアクセスできない場合に、本製品の管理画面に接続するパソコンのIPアドレスがどのようになっているかを確認する方法を説明します。
ここで説明しているIPアドレスの確認方法は、本製品に接続する有線クライアントおよび無線LAN子機のIPアドレスを確認するときにも使用できます。

本製品から正常にIPアドレスが割り当てられているとき

本製品に接続されているパソコンのネットワーク設定は以下になっています。

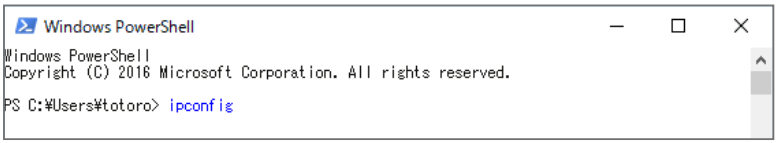
IP アドレス	192.168.3.xxx 「xxx」は任意の数字（初期値：100 ～200 のいずれか）です。
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.3.1

Windows 10の場合

1 **[スタート]→[Windows Powershell]をクリックします。**

2 「Windows Powershell」画面が表示されますので、

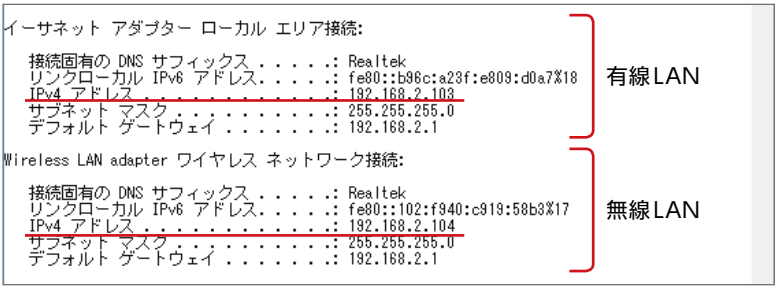
「>」のあとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。



MEMO

- 入力する文字は半角英数字です。
- 「"xxx"は、内部コマンド…」と表示された場合は、入力間違いです。もう一度入力してください。

ネットワーク接続情報が表示されます。



有線LAN接続は「イーサネット アダプターローカル エリア接続」、無線LAN接続は「Wireless LAN adapter ワイヤレス ネットワーク接続」の「IPv4アドレス」に現在のIPアドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます(xxxは任意の数字)。

製品の保証について

製品の保証とサービス

本製品には保証とご使用にあたっての注意について記載した文書「安全にお使いいただくために」が付いています。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より3年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については製品情報に記載の保証規定をご確認ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

- 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

詳しい保証規定につきましては、「安全にお使いいただくために」に記載の保証規定をご確認ください。

●その他のご質問などに関して

次ページ「サポートサービスについて」をお読みください。

サポートサービスについて

よくあるお問い合わせ、対応情報、マニュアルなどをインターネットでご案内しております。ご利用が可能であれば、まずご確認ください。

詳細は…
サポートポータルサイト「えれさぽ」へ

エレコム法人様サポートセンター

TEL: 0570-070-040

【受付時間】9:00 ～ 12:00 ／ 13:00 ～ 18:00　(月曜日～土曜日)
※祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く

ネットワークサポートにお電話される前に

お問い合わせの前に以下の内容をご用意ください。
・ 弊社製品の型番
・ ご質問内容(症状、やりたいこと、お困りのこと)
※ 可能な限り、電話しながら操作可能な状態でご連絡ください。

日本以外でご購入されたお客様は、購入国の販売店舗へお問い合わせください。
エレコム株式会社は、日本以外の国でのご購入・ご使用による問い合わせ・サポート対応は致しかねます。また、日本語以外の言語でのサポートは致しかねます。商品交換は保証規定に沿って対応致しますが、日本以外からの商品交換は対応致しかねます。
This product is designed for use in japan only.
A customer who purchases outside Japan should contact the local retailer in the country of purchase for enquiries. In "ELECOM CO., LTD. (Japan)", no customer support is available for enquiries about purchases or usage in/from any countries other than Japan. Also, no foreign language other than Japanese is available. Replacements will be made under stipulation of the Elecom warranty, but are not available from outside of Japan.

基本仕様

機種		WAB-M1775-PS
データ転送速度	有線 LAN	10Mbps : IEEE802.3 (10Base-T) 100Mbps : IEEE802.3u (100Base-TX) 1000Mbps : IEEE802.3ab (1000Base-T) (自動判別 Auto MDI/MDI-X に対応)
	無線 LAN	IEEE802.11ax : 最大 1201Mbps(5GHz)/574Mbps(2.4GHz) IEEE802.11ac : 最大 867Mbps IEEE802.11n : 最大 300Mbps IEEE802.11a/g : 最大 54Mbps IEEE802.11b : 最大 11Mbs
消費電力	AC アダプター給電時	最大 17.0W(AC アダプター給電時は PoE パススルー機能は使用できません)
	PoE 受電時	最大 25.5W(PoE パススルー使用時は同時に USB メモリーを使用できません)
環境条件	動作時温度	0 ～ 50℃
	動作時湿度	10 ～ 90% (結露なきこと)
外形寸法		製品本体のみ : 幅 170mm ×奥行 180mm ×高さ 35mm セキュリティカバー使用時 (取付金具含む) : 幅 170mm ×奥行 225mm ×高さ 48mm (共に突起部含まず)
質量		製品本体のみ : 約 650g セキュリティカバー使用時 (取付金具含む) : 約 950g

■ 設定ユーティリティの工場出荷時の設定値

管理アカウント	ユーザー名	admin
	パスワード	付属の「管理者情報シート」に記載されています。

重要 セキュリティ確保のため、初期値からの変更をおすすめいたします。

■ 有線 LAN の工場出荷時設定値(初期値)

LAN 側 IP アドレス	192.168.3.1

■ 無線LANの工場出荷時設定値（初期値）

5GHz 規格 接続用	2.4GHz 規格 接続用
無線設定：無効 SSID：elecom5gXX-XXXXXX※ 認証設定：無効 暗号化：無効 マルチ SSID：1 ANY アクセス：有効 モード：11a/n/ac/ax	無線設定：無効 SSID：elecom2gXX-XXXXXX※ 認証設定：無効 暗号化：無効 マルチ SSID：1 ANY アクセス：有効 モード：11b/g/n/ax

※ XXXXXX は、任意の数字と英文字（0 ～ 9、a ～ f）です。

ELECOM

無線アクセスポイント
WAB-M1775-PS ユーザーズマニュアル

発行　エレコム株式会社

©ELECOM CO.,LTD.　2020　All Rights Reserved.